第３章　各調査対象の調査結果

Ⅰ.「未就学児の保護者」の調査結果

１．子育て全般について

（１）子育てや教育に関する意見（問１）

①女性も子育て期に仕事をやめるべきでない

「ややそう思う」（33.3%）と「そう思う」（18.9%）をあわせると 52.2%と、肯定的な意見が 5 割強を占めているが、一方、「あまりそう思わない」（37.4%）と「そう思わない」（9.8%）をあわせた否定的な意見も 47.2%と、5 割近くにのぼっており、子育て期における女性の仕事の継続の是非に関しては意見が分かれている。

②子育て期の親は仕事を軽減させて子どもとなるべく長く過ごす方がよい

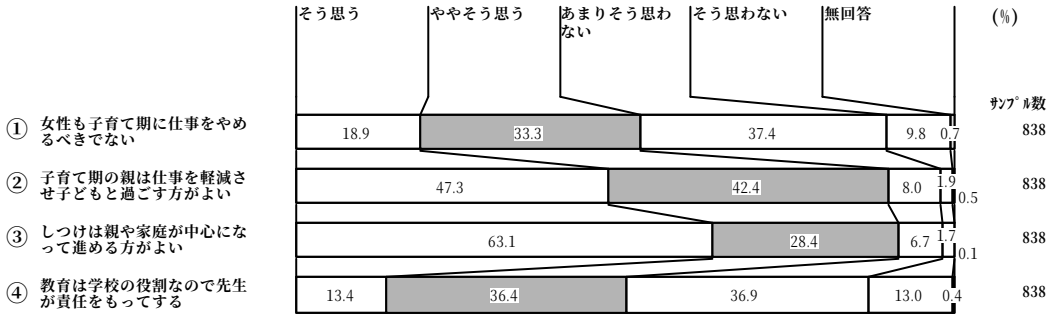
「そう思う」（47.3%）が 5 割近くを占めて最も高く、これに「ややそう思う」が 42.4%で続いており、両者をあわせると 89.7%と、子育て期における仕事の軽減に関しては肯定的な意見が約 9 割を占めている。

③しつけは親や家庭が中心になって進める方がよい

「そう思う」（63.1%）が 6 割を超えて顕著に高く、これに「ややそう思う」（28.4%）をあわせると 91.5%と、親や家庭がしつけの中心を担うことに関しては肯定的な意見が 9 割以上を占めている。

④教育は学校の役割なので先生が責任をもってしなければならない

「ややそう思う」（36.4%）と「そう思う」（13.4%）をあわせた肯定的な意見は 49.8%、「あまりそう思わない」（36.9%）と「そう思わない」（13.0%）をあわせた否定的な意見は 49.9%と、いずれも 5 割ずつとなっており、教育は学校の役割であるという見解に関しては意見が分かれている。



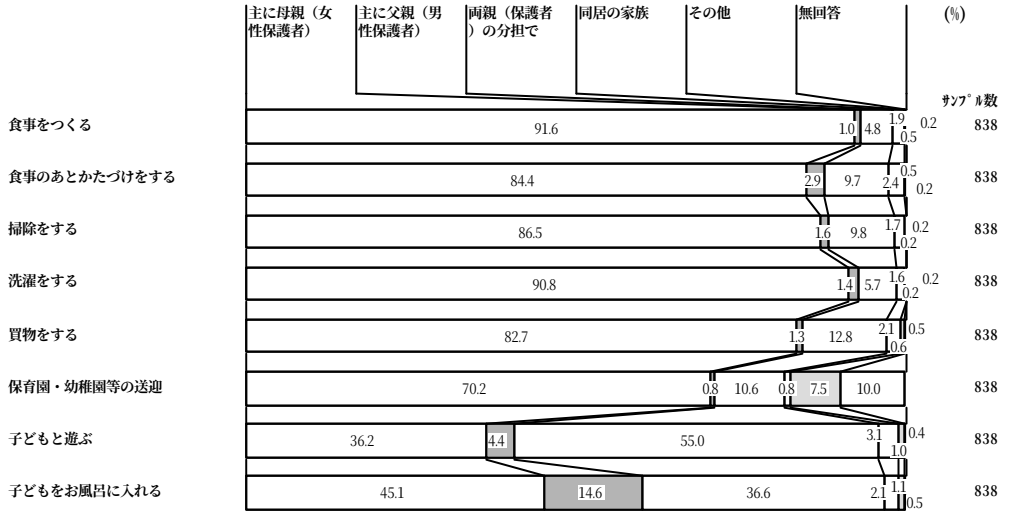
（２）家事や子育ての分担状況（問２）

家事や育児の 8 場面に関して、それぞれの主な担い手を聞いている。その結果、「主に母親」とする割合は『食事をつくる』（91.6%）と『洗濯をする』（90.8%）で 9 割を超えているほか、『掃除をする』（86.5%）、『食事のあとかたづけをする』（84.4%）、『買物をする』（82.7%）でも 85%前後を占めており、これらの場面では、いずれも「主に父親」は数%、「両親の分担で」は 1 割前後にとどまっている。

一方、8 場面のうち、「主に父親」が最も高いのは『子どもをお風呂に入れる』で、14.6%みられ、これに「両親の分担で」（36.6%）をあわせると 51.2%と、全体の半数以上で男性の参加がみられる。そのほか男性の参加が高い場面は『子どもと遊ぶ』で、「主に父親」は 4.4%にとどまるものの、「両親の分担で」が 55.0%と、5 割を超えており、両者をあわせると 59.4%と、全体の約 6 割で男性の参加がみられる。

なお、『保育園・幼稚園等の送迎』に関しては、通園する子どもを持たない対象者もいるため「無回答」や「その他」が 2 割近くと、若干高くなっているが、「主に母親」が 70.2%で最も高いものの、「両親の分担で」（10.6%）も約 1 割みられる。

全体的にみると、家事に関しては、男性の参加（「主に父親」もしくは「両親の分担で」とする割合）は 1 割程度にとどまっており、母親のみが担っているケースがほとんどである。一方、『子どもをお風呂に入れる』や『子どもと遊ぶ』といった育児の場面においては、父親の参加が 5～6 割（順に 51.2%、59.4%）みられる。



（3）子育てに関して感じること（問３）

①子どもを育てるのは楽しい

「よく感じる」が 58.2%、「ときどき感じる」が 37.8%で、全体の 9 割以上（96.0%）が「子育てが楽しい」と感じている。

②子どもの顔を見ると気持ちが安らぐ

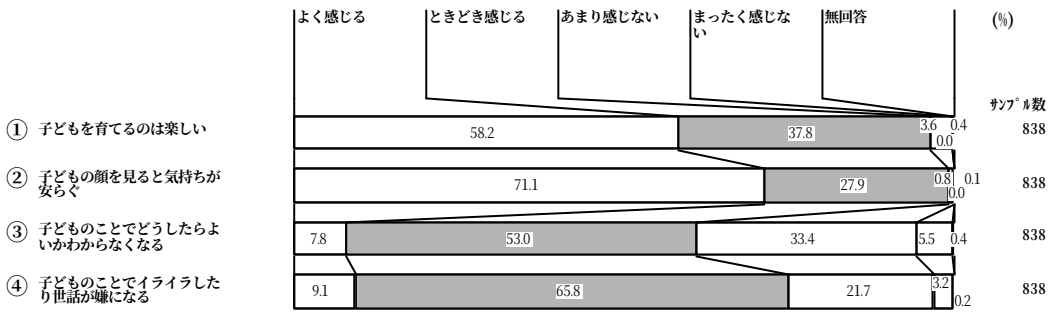
「よく感じる」が 71.1%、「ときどき感じる」が 27.9%で、ほとんど全員（99.0%）が「子どもの顔を見ると気持ちが安らぐ」と感じている。

③子どものことでどうしたらよいかわからなくなる

「よく感じる」（7.8%）は 1 割未満にとどまるものの、「ときどき感じる」という人が 53.0%と、5 割を超えており、両者をあわせると 60.8%と、子育ての中でなんらかの悩みを持っている人は全体の約 6 割にのぼっている。

④子どものことでイライラしたり世話が嫌になる

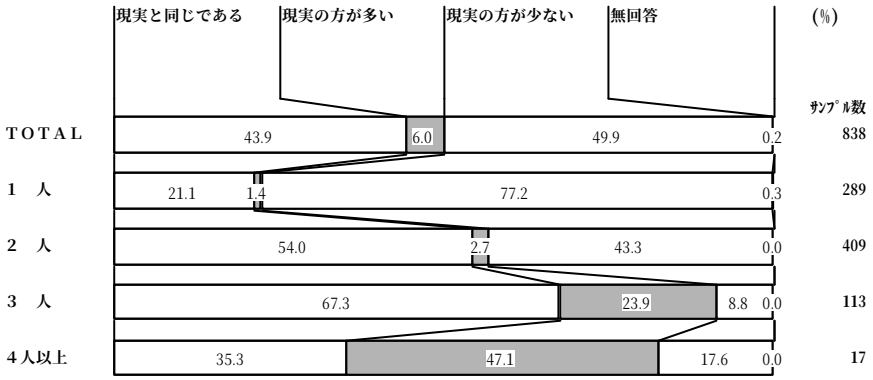
「よく感じる」（9.1%）が約 1 割みられるほか、「ときどき感じる」（65.8%）という人が全体の約 3 分の 2 にのぼっており、両者をあわせると 74.9%と、子どものことでさまざまなストレスを感じている人は全体の約 4 分の 3 にのぼっている。



（４）ほしいと思う子どもの数と現実との比較（問４）

現実の子どもの数を希望する子どもの数と比べると、「現実と同じである」（43.9%）という人は 4 割強にとどまり、「現実の方が少ない」（49.9%）が約 5 割を占めて最も高くなっている。

これを子どもの人数別にみると、現実と理想が一致している割合が高いのは『3 人』で、「現実と同じである」が 67.3%を占め、3 分の 2 以上の人が現実の子どもの数に満足している。一方、現実と理想が一致している割合が低いのは『1 人』で、「現実と同じである」（21.1%）は約 2 割にとどまり、8 割近くの人が「現実の方が少ない」（77.2%）と回答している。



子どもの人数別無回答　N=10 を除く

（５）現実の方が少ない理由（問４－1）（３つまでの制限回答）

問４で「現実の方が少ない」と回答している人にその理由を聞いた結果、「経済的（収入面や子育てにかかる費用）に大変だから」（61.0%）が約 6 割にのぼって顕著に高くなっており、以下、「家が狭いから」（22.2%）、「子育ての精神的・肉体的負担を軽くしたいから」（20.8%）、「保育制度が整っていないから」（16.7%）がいずれも 2 割前後で続いており、子育てに伴う経済的・肉体的・精神的な負担のほか、保育制度に関わる理由が上位を占めている。なお、「その他」への回答も 16.5%みられるが、その内容としては、「まだ一人目を生んだばかりなのでこれから考えたい」や「上の子どもともう少し年を離したいから、まだ時期ではない」といった回答が大部分を占めており、本調査は就学前の子どもの親を対象としているため、これから第二子以降を予定している対象者が数多く含まれている状況がうかがえる。

これを母親の職業別にみると、職業にかかわらず「経済的（収入面や子育てにかかる費用）に大変」が 1 位を占めているが、その割合は『パート・アルバイト』（67.9%）や『内職・在宅勤務』（70.0%）においては約 7 割と特に高くなっている。また、2 位以下の項目に着目すると、『勤め人（常勤）』と『パート・アルバイト』では、「保育制度が整っていないから」（30.6%、24.5%）が 2～3 割で 2 位を占めているほか、『勤め人（常勤）』では、全体では下位に位置している「職場の理解と協力がないから」が 20.8%にのぼり、「家が狭いから」と並んで 3 位となっている。一方、『無職』では「家が狭いから」（23.8%）と「子育ての精神的・肉体的負担を軽くしたいから」（23.1%）がいずれも 23%台で 2～3 位となっている。

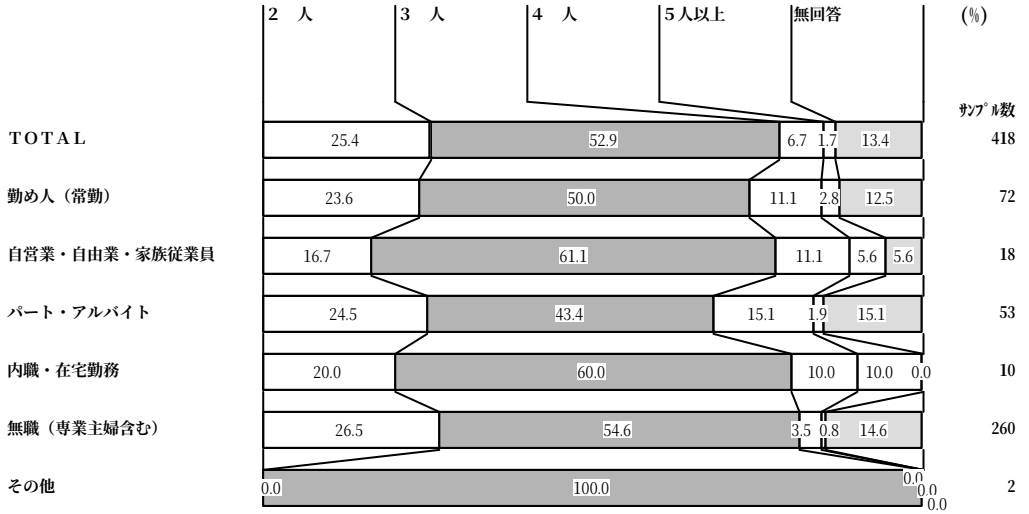
	＊問８　母親（女性保護者）の職業	N	1 経済的・収入面や子育てにかかる費用が大変だから	2 家が狭いから	3 子育ての精神的・肉体的負担を軽くしたいから	4 保育制度が整っていないから	5 自分たちの自由な時間と育児は両立しないから	6 子どもができない	7 自分・配偶者の健康上の理由で	8 家族の理解と協力がないから	9 末の子が自分・配偶者の定年退職までに成人しない	10 職場の理解と協力がないから	11 手のかかる家族がいるから	12 仕事を優先させたいから	13 その他	14 無回答
0	TOTAL	418	61.0	22.2	20.8	16.7	13.6	12.7	11.5	9.6	6.5	5.7	4.8	4.3	16.5	1.4
1	勤め人（常勤）	72	48.6	20.8	19.4	30.6	16.7	11.1	6.9	12.5	0.0	20.8	5.6	9.7	18.1	2.8
2	自営業・自由業・家族従業員	18	61.1	16.7	22.2	22.2	11.1	22.2	11.1	0.0	11.1	0.0	5.6	11.1	11.1	5.6
3	パート・アルバイト	53	67.9	18.9	15.1	24.5	13.2	13.2	17.0	11.3	5.7	9.4	1.9	7.5	5.7	0.0
4	内職・在宅勤務	10	70.0	20.0	10.0	20.0	20.0	20.0	10.0	0.0	10.0	10.0	0.0	10.0	10.0	0.0
5	無職（専業主婦含む）	260	62.7	23.8	23.1	11.2	13.1	11.9	11.9	9.6	8.1	1.2	5.4	1.5	18.8	0.8
6	その他	2	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

女性保護者の職業別無回答　N=3 を除く

（６）理想とする子どもの人数（問４－２）

問 4 で「現実の方が少ない」と回答している人に、理想とする子どもの人数を聞いた結果、「3 人」（52.9%）が 5 割を超えて最も高く、次いで「2 人」が 25.4%となっている。

これを母親の職業別にみると、すべての職業において「3 人」が 5～6 割前後を占めて最も高く、次いで「2 人」が 2 割前後となっており、母親の職業による顕著な差はみられない。

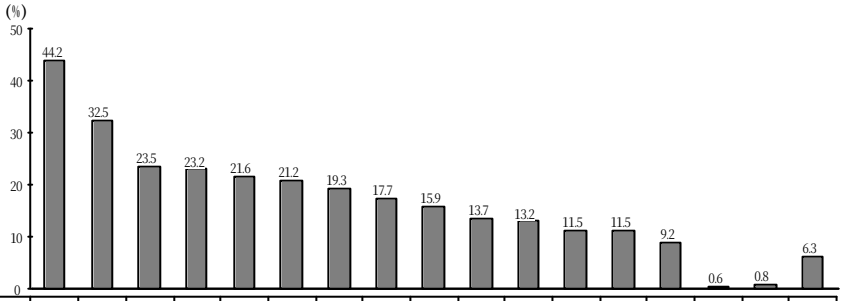


女性保護者の職業別無回答　N=3 を除く

（７）子育てと仕事の両立のために企業等に求める制度（問５）（３つまでの制限回答）

子育てと仕事の両立を図るために企業等に希望する制度については、「子どもが病気やけがなどのときの介護休暇制度」が 44.2%で最も高く、以下、「出産・育児のため会社を辞めた女性の再雇用制度」（32.5%）が 3 割強、「企業が男性も各種制度の適用対象とし、子育て支援する」（23.5%）、「企業内に保育所を設ける」（23.2%）、「育児のための短時間勤務制度」（21.6%）、「産前産後の休暇が十分取れる制度」（21.2%）、「育児のためのフレックスタイム制度」（19.3%）がいずれも 2 割前後となっている。全体的にみると、子育て期間中における介護休暇や就業時間への配慮、再雇用制度などへの要望が高くなっており、休業手当や保育料の助成等の経済的な支援は下位に位置している。

これを母親の職業別にみると、『勤め人（常勤）』では、「子どもが病気やけがなどのときの介護休暇制度」（52.1%）と「育児のための短時間勤務制度」（43.8%）が 4～5 割にのぼり、そのほかの制度を大きく引き離して上位を占めている。一方、『パート・アルバイト』や『無職』においても、「子どもが病気やけがなどのときの介護休暇制度」（53.3%、42.5%）が 4～5 割にのぼって 1 位を占めているが、これに「出産・育児のため会社を辞めた女性の再雇用制度」（33.7%、35.8%）が続いており、2 位以下に着目すると『勤め人（常勤）』とは異なった傾向がみられる。

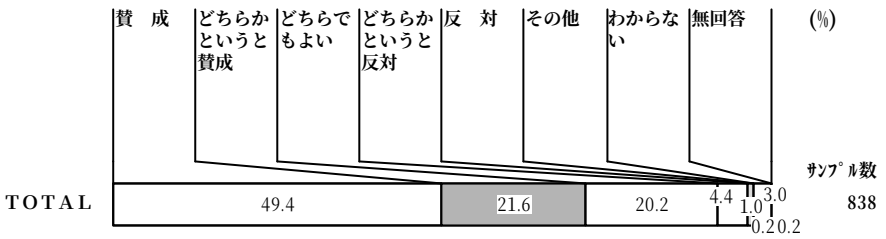


	＊問８　母親（女性保護者）の職業	N	1 きの介護休暇制度 子どもが病気やけがなどのと	2 た女性の再雇用制度 出産・育児のため会社を辞め	3 対象とし子育て支援する 企業が男性も各種制度の適用	4 企業内に保育所を設ける	5 育児のための短時間勤務制度	6 制度 産前産後の休暇が十分取れる	7 ム制度 育児のためのフレックスタイ	8 て便宜を図る各種制度 妊娠中の通勤・就労等に対し	9 育児のための在宅勤務制度	10 よう職場での理解を広める 企業が各種制度を取りやすい	11 手当支給される制度 満1歳までの育児休業期間に	12 してとれる制度 育児休業期間を1年以上延長	13 に参加できる休暇制度 子どもの行事・授業観などに	14 成 保育料に対する企業からの助	15 その他	16 特にない	17 無回答
0	TOTAL	838	44.2	32.5	23.5	23.2	21.6	21.2	19.3	17.7	15.9	13.7	13.2	11.5	11.5	9.2	0.6	0.8	6.3
1	勤め人（常勤）	121	52.1	18.2	24.8	14.9	43.8	12.4	23.1	14.9	7.4	9.9	16.5	19.0	10.7	5.8	0.8	0.0	8.3
2	自営業・自由業・家族従業員	35	34.3	22.9	25.7	20.0	14.3	17.1	22.9	20.0	20.0	5.7	8.6	8.6	25.7	5.7	2.9	2.9	5.7
3	パート・アルバイト	92	53.3	33.7	21.7	22.8	19.6	23.9	18.5	17.4	17.4	10.9	21.7	9.8	7.6	12.0	0.0	1.1	4.3
4	内職・在宅勤務	22	27.3	27.3	36.4	22.7	9.1	13.6	22.7	18.2	40.9	4.5	13.6	4.5	4.5	13.6	0.0	4.5	4.5
5	無職（専業主婦含む）	562	42.5	35.8	22.8	25.4	18.1	23.0	18.1	18.1	16.4	15.7	11.4	10.7	11.7	9.4	0.5	0.7	6.4
6	その他	3	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	33.3	33.3	33.3	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0

女性保護者の職業別無回答　N=3 を除く

（８）通学区域の枠を越える学校自由選択制度についての賛否（問６）

公立の小中学校において、通学区域の枠を超えて通学できるという学校自由選択制度を取り入れることに対しては、「賛成」（49.4%）が約 5 割を占め、これに「どちらかというと賛成」（21.6%）をあわせると 71.0%と、賛成意見が約 7 割を占め、「反対」（1.0%）や「どちらかというと反対」（4.4%）は 5.4%にとどまっている。



（９）子どもの権利で特に大切だと思うこと（問７）（5 つまでの制限回答）

子どもの権利で特に大切だと思うことについては、「暴力や言葉で傷つけられないこと」（71.4%）と「家族が仲良く、一緒に過ごす時間を持つこと」（67.4%）が 7 割前後にのぼって特に高くなっている。以下、「障害のある子どもが差別されないで暮らせること」（59.8%）、「人と違う自分らしさが認められること」（58.8%）が約 6 割、「自分の考えをいつでも自由に言えること」（50.5%）、「子どもも独立した人格の持ち主だと認められること」（46.9%）が 5 割前後、「人種や言葉や宗教などの違いで差別されないこと」（41.8%）が約 4 割となっている。なお、そのほかへの回答はいずれも 1 割前後にとどまっており、子どもが暴力の犠牲となることなく幸せな家庭環境の中で過ごせることに次いで、子どもの個性や意見の尊重を重視する人が多くなっている。

これを母親の年齢別にみると、全体で最も高い「暴力や言葉で傷つけられないこと」は母親の年齢が高くなるほど一層高くなっており、30 歳以上では 1 位を占め、特に 40 歳以上では 8 割前後にのぼっている。一方、20 歳代では「家族が仲良く、一緒に過ごす時間を持つこと」が最も高くなっている。また、「人種や言葉や宗教などの違いで差別されないこと」と「人と違う自分らしさが認められること」も母親の年齢が高くなるほど高くなっており、一方「自分の考えをいつでも自由に言えること」は年齢が低くなるほど高くなるという傾向がみられる。

	＊問３７　母親（女性保護者）の年齢	N	1 暴力や言葉で傷つけられないこと	2 家族が仲良く一緒に過ごす時間を持つこと	3 障害のある子どもが差別されないで暮らせること	4 人と違う自分らしさが認められること	5 自分の考えをいつでも自由に言えること	6 子どもも独立した人格の持主だと認められること	7 人種や言葉や宗教などの違いで差別されないこと	8 遊んだり疲れたときは休むなど自由になる時間を持つ	9 子どもが知りたいと思うことが隠されないこと	10 自分の秘密が守られること	11 子どもの権利条約について知ること	12 子どもの自由な呼びかけでグループを作り集まれること	13 その他	14 特にない	15 無回答
0	TOTAL	838	71.4	67.4	59.8	58.8	50.5	46.9	41.8	12.9	11.3	9.3	2.5	1.0	1.3	0.2	0.5
2	２０～２４歳	13	53.8	76.9	61.5	30.8	61.5	46.2	30.8	38.5	7.7	7.7	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0
3	２５～２９歳	104	59.6	60.6	59.6	46.2	56.7	40.4	39.4	11.5	18.3	8.7	0.0	1.9	1.0	1.9	1.9
4	３０～３４歳	366	70.8	69.1	56.0	58.5	49.7	50.0	41.8	13.1	11.5	9.8	1.9	1.1	0.5	0.0	0.3
5	３５～３９歳	253	73.5	69.2	63.6	63.6	49.0	47.4	41.5	11.9	7.9	8.7	2.4	0.0	3.2	0.0	0.4
6	４０～４４歳	81	84.0	64.2	60.5	64.2	45.7	45.7	48.1	12.3	13.6	8.6	8.6	0.0	0.0	0.0	0.0
7	４５～４９歳	9	77.8	44.4	77.8	66.7	55.6	22.2	44.4	11.1	0.0	11.1	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0
8	５０歳以上	1	100.0	100.0	0.0	100.0	100.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0

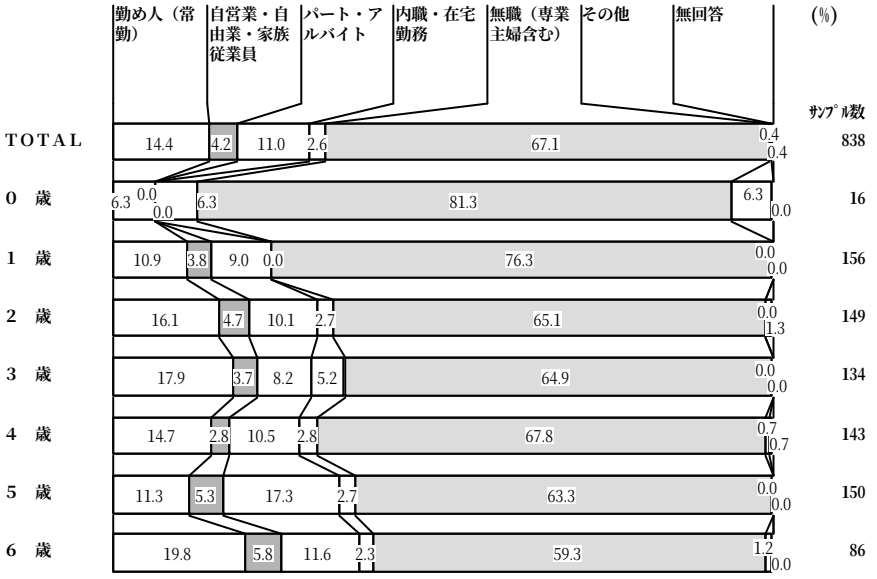
女性保護者の年齢別無回答　N=11 を除く

２．保護者の就労状況について

（１）母親（女性保護者）の職業（問８）

母親（女性保護者）の職業は、「無職」が 7 割弱（67.1%）を占め、次いで「勤め人（常勤)」(14.4%）と「パート・アルバイト」(11.0%）がいずれも 1 割強となっている。

これを宛名の子どもの年齢別にみると、「無職」の割合は『0 歳』(81.3%）と『1 歳』(76.3%）では 8 割前後にのぼっているのに対し、2 歳から 5 歳までは 65%前後、『6 歳』(59.3%）では約 6 割と、子どもの年齢が高くなるほど無職の割合は低くなっている。なお、有職者に着目すると、子どもの年齢によって差がみられるのは「勤め人（常勤)」と「パート・アルバイト」で、『5 歳』では「パート・アルバイト」(17.3%）が、『6 歳』では「勤め人（常勤)」(19.8%）が 2 割弱にのぼり、他の年齢に比べて高くなっている。

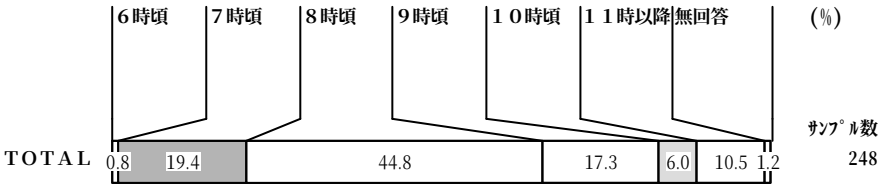


宛名の子どもの年齢別無回答　N=4 を除く

（２）母親（女性保護者）の出勤時間および帰宅時間（問８－１）

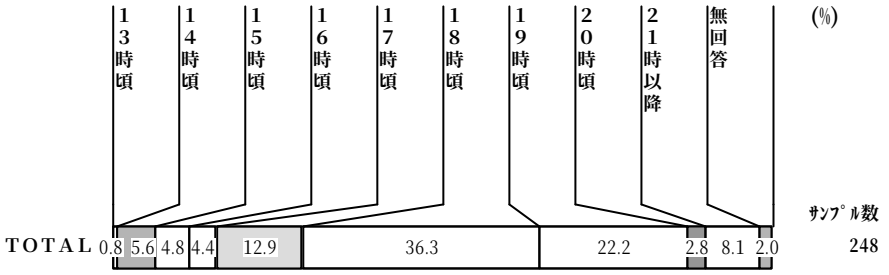
①出勤時間

自宅以外の場所で仕事をしている母親（女性保護者）が仕事のために家を出る時間については、「8 時頃」が 44.8%を占めて特に高く、以下「7 時頃」(19.4%)、「9 時頃」(17.3%）の順となっており、7 時から 9 時の間に家を出ている人が約 8 割（81.5%）を占める。



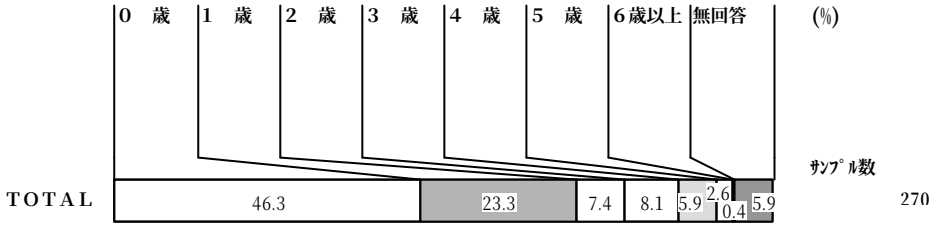
②帰宅時間

自宅以外の場所で仕事をしている母親（女性保護者）が仕事から帰宅する時間については、「18 時頃」(36.3%)が 3 分の 1 以上を占めて最も高く、以下、「19 時頃」が 22.2%、「17 時頃」が 12.9%の順となっており、17 時から 19 時の間に帰宅する人が約 7 割（71.4%）を占めている。なお、帰宅が「21 時以降」(8.1%）になる人も約 1 割みられる。



（３）就労開始時の末子の年齢（問８－２）

現在仕事をしているという母親が今の仕事を始めたときの末の子どもの年齢については、「0 歳」が 46.3%を占めて最も高く、これに「1 歳」が 23.3%で続いており、両者をあわせると、仕事をしている母親のうち約 7 割は末子が 1 歳以前にすでに仕事を開始している。



（４）就労している理由（問８－３）（3 つまでの制限回答）

現在働いている理由については、「家計を維持するため」（45.6%）が 5 割近くにのぼって最も高い。以下、「子どもの将来に備えるため」（29.3%）、「仕事が好きだから」（29.3%）、「家計の足しにするため」（28.5%）がいずれも約 3 割、「自分の能力や資格を生かすため」が 24.8%で続いており、経済的な理由だけでなく、仕事内容に対する魅力も上位にみられる。なお、「その他」への回答が 6.7%みられるが、その中には、「子どもと二人きりでいることを避けるため」といった、育児ストレスの解消を目的とした理由なども含まれている。

		N	1 家計を維持するため	2 子どもの将来に備えるため	3 仕事が好きだから	4 家計の足しにするため	5 自分の能力や資格を生かすため	6 視野を広げたいから	7 自己実現のため	8 経済的に自立したいから	9 自分の自由になるお金が欲しいから	10 将来・老後に備えるため	11 家業だから	12 その他	13 無回答
0	TOTAL	270	45.6	29.3	29.3	28.5	24.8	18.1	13.0	12.6	12.2	10.7	10.4	6.7	2.6

（５）就労意向（問９）

無職の母親（女性保護者）の就労意向については、「子育てが落ち着いたら働きたいが当面は子育てに専念したい」（63.3%）という人が 3 分の 2 近くを占めている。一方、「（働く意志はあるが）子どもの預け先がないので仕事が探せない」とする人も 12.1%と、1 割以上みられ、これに「仕事を探している」（1.4%）、「具体的に働く予定がある」（0.9%）、「いい仕事があれば働いてみたい」（9.6%）をあわせると、現状において働く意志または予定のある人は 2 割強（24.0%）である。なお、「働くつもりはない」（4.6%）や「病気などのために働けない」（1.2%）など、将来に渡って働く予定のない人は 5%程度にとどまる。

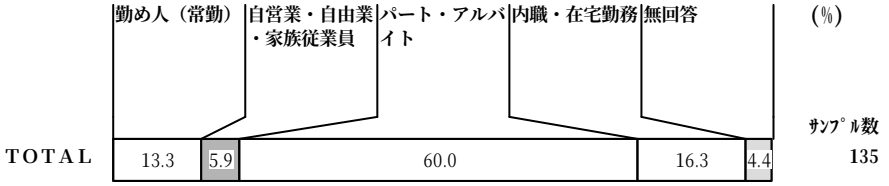
これを宛名の子どもの年齢別にみると、「当面は子育てに専念したい」は子どもの年齢が低いほど顕著に高くなっており、『0 歳』（76.9%）では 8 割近くを占めている。一方、子どもの年齢が高くなるほど「当面は子育てに専念したい」は低下し、代わって「いい仕事があれば働いてみたい」が高くなる傾向がみられ、子どもの年齢が高くなるほど現状において働く希望を持っている人が多くなっている。なお、「子どもの預け先がないので仕事が探せない」とする割合は『0 歳』（23.1%）や『1 歳』（16.8%）で 2 割前後と若干高くなっており、低年齢児の保育先の確保が困難な状況がうかがえる。

	＊問２４－１　子どもの年齢	N	1 いが当面は子育てに専念子育てが落ち着いたら働きた	2 け先がないので探せない働く意志はあるが子どもの預	3 いい仕事があれば働いてみた	4 働くつもりはない	5 中である仕事を探している・求職活動	6 病気などのために働けない	7 具体的に働く予定がある	8 いために働けない家族・親族の理解が得られな	9 その他	10 わからない	11 無回答
0	ＴＯＴＡＬ	562	63.3	12.1	9.6	4.6	1.4	1.2	0.9	0.9	2.0	0.5	3.4
1	０　歳	13	76.9	23.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2	１　歳	119	66.4	16.8	5.0	3.4	0.8	2.5	0.8	0.0	1.7	0.8	1.7
3	２　歳	97	63.9	11.3	11.3	5.2	1.0	0.0	2.1	2.1	2.1	0.0	1.0
4	３　歳	87	66.7	10.3	5.7	8.0	1.1	0.0	0.0	0.0	2.3	2.3	3.4
5	４　歳	97	64.9	6.2	12.4	3.1	1.0	3.1	1.0	1.0	1.0	0.0	6.2
6	５　歳	95	58.9	12.6	13.7	4.2	3.2	0.0	1.1	1.1	1.1	0.0	4.2
7	６　歳	51	51.0	13.7	13.7	3.9	2.0	2.0	0.0	2.0	5.9	0.0	5.9

宛名の子どもの年齢別無回答　N=3 を除く

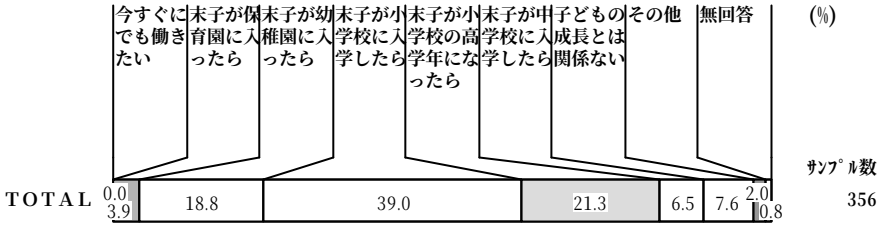
（６）働く場合に希望する勤務形態（問９－１）

現状において働く意志または予定のある人（問９で「１」～「４」に回答）に、希望している勤務形態を聞いた結果、「パート・アルバイト」（60.0%）が 6 割を占めて最も高く、以下、「内職・在宅勤務」が 16.3%、「勤め人（常勤）」が 13.3%となっている。



（７）就労を希望する時期（問９－２）

問９において「子育てがある程度落ち着いたら働きたいが、当面は子育てに専念したい」とする人に、末子がどのような状況になったら働きたいと思うかを聞いた結果、「小学校に入学したら」が 39.0%で最も高く、以下、「小学校の高学年になったら」（21.3%）、「幼稚園に入ったら」（18.8%）がいずれも約 2 割で続いている。



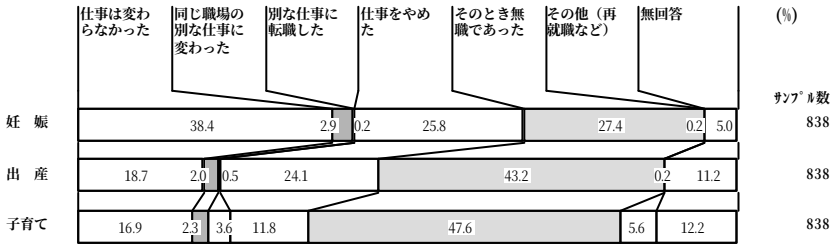
（８）妊娠・出産・子育て期における仕事形態の変化（問 10）

①第一子の場合

第一子においては、『妊娠』前から無職（27.4%）であった人は 3 割弱で、『妊娠』時に「仕事をやめた」人は 25.8%、『出産』時に「仕事をやめた」人は 24.1%、『子育て』期に「仕事をやめた」人は 11.8%となっており、妊娠や出産の時点において仕事をやめる人が多く、『子育て』の時点では、すでに「そのとき無職であった」（47.6%）人が 5 割近くを占める。

「仕事は変わらなかった」人は、『妊娠』時においては 38.4%にのぼるが、『出産』時においては 18.7%にとどまっており、第一子の場合、妊娠時点においては以前の仕事を継続させることができても、出産時点において継続困難となる人が多くなっている。なお、『子育て』時点においては、「仕事は変わらなかった」が 16.9%と、『出産』時点と大きな変化はみられない。

これらの結果から、第一子の場合、『妊娠』『出産』『子育て』のいずれの時期においても、退職という形での仕事形態の変化がみられ、特に、妊娠や出産の時点で仕事をやめる人が多くなっている。

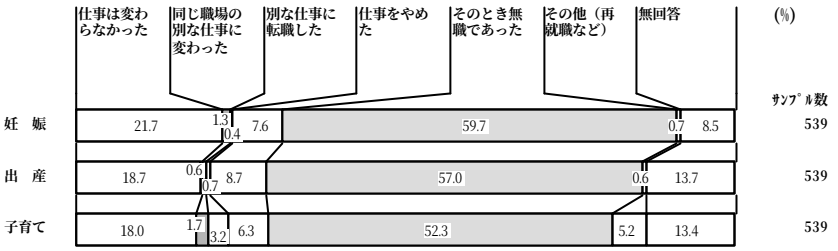


②第二子の場合

第二子の場合、妊娠時にすでに無職であった人（59.7%）が約 6 割を占める。その割合は、『妊娠』『出産』『子育て』を通して大きな変化はみられず、「そのとき無職であった」（順に 59.7%、57.0%、52.3%）がいずれも 5～6 割となっている。

一方、『妊娠』～『子育て』において「仕事をやめた」人は第一子に比べると極めて低く、いずれも 1 割未満にとどまり、「仕事は変わらなかった」がいずれも約 2 割となっている。

これらの結果から、第二子においては妊娠時において無職である人が多く、第一子時のような仕事形態の著しい変化はみられない。（なお、この設問は子どもが 2 人以上いる人のみを対象としている。）



第一子から第二子までの仕事形態の変化を通してみると、仕事形態の変化が最も著しいのは第一子の妊娠から出産の時期である。それ以降では、転職や退職が 1 割前後はみられるものの、「そのとき無職であった」という割合は常に 5 割前後で推移しており、第一子の妊娠・出産時点において仕事を継続している人は、その後の出産や子育てを通しても仕事を継続する割合が高いという状況が伺える。

（９）仕事の職種変更や退職の理由（問 10－１）（2 つまでの制限回答）

妊娠～子育てをきっかけに仕事形態を変えたり、仕事をやめたという人にその理由を聞いている。

①第一子の場合

「子育てに十分時間をかけたかったため」（49.7%）が約 5 割にのぼって最も高い。これに、「体力的に自信がなかったため」（26.7%）と「職場に十分な制度や理解と協力がなかったため」（25.5%）がいずれも約 25%で続いており、個人的な理由だけでなく、職場環境の不十分さを理由とする回答も上位に含まれている。なお、「その他」（20.7%）への回答が約 2 割にのぼっているが、その具体的内容としては、「切迫流産やつわりなど、妊娠中に体調を崩したため」が大部分を占めているほか、「職場が遠い、配置換えがあった、職場が移転した、勤務時間が変わった」などの職場環境の変化によるものや、「夫の転勤」などが含まれている。

		N	1 子育てに十分時間をかけたかったため	2 体力的に自信がなかったため	3 職場に十分な制度や理解と協力がなかったため	4 希望する時間などに合う保育園がなかったため	5 家族の理解や協力がなかったため	6 時間の都合がつけやすい仕事に変わりたかったため	7 責任や負担の軽い仕事に就きたかったため	8 その他	9 無回答
0	TOTAL	439	49.7	26.7	25.5	6.2	6.2	5.2	3.9	20.7	0.5

②第二子の場合

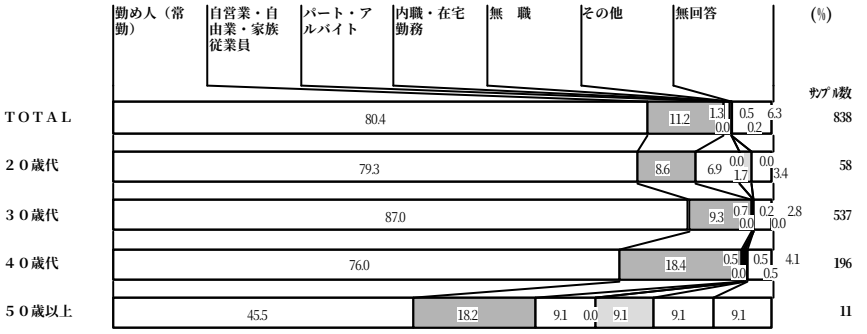
1 位は「子育てに十分時間をかけたかったため」（40.7%）となっており、上位項目に着目すると、第一子と同様の傾向がみられる。しかし、「時間の都合がつけやすい仕事に変わりたかったため」（14.8%）や「責任や負担の軽い仕事に就きたかったため」（7.4%）といった職場･仕事環境の転換に関わる内容に関しては、第一子に比べて若干高くなっている。

		N	1 子育てに十分時間をかけたかったため	2 体力的に自信がなかったため	3 職場に十分な制度や理解と協力がなかったため	4 時間の都合がつけやすい仕事に変わりたかったため	5 責任や負担の軽い仕事に就きたかったため	6 希望する時間などに合う保育園がなかったため	7 家族の理解や協力がなかったため	8 その他	9 無回答
0	TOTAL	81	40.7	24.7	19.8	14.8	7.4	3.7	2.5	22.2	3.7

（10）父親（男性保護者）の職業（問 11）

父親（男性保護者）の職業は、「勤め人（常勤）」（80.4%）が約 8 割を占め、次いで「自営業・自由業・家族従業員」（11.2%）が約 1 割となっている。

これを父親（男性保護者）の年齢別にみると、すべての年齢層において「勤め人（常勤）」が最も高くなっているが、その割合が特に高いのは『30 歳代』で、「勤め人（常勤）」（87.0%）が 9 割近くを占めている。一方、『40 歳代』と『50 歳以上』では「自営業・自由業・家族従業員」（18.4%、18.2%）が約 2 割と、『30 歳代』や『20 歳代』に比べて高くなっている。

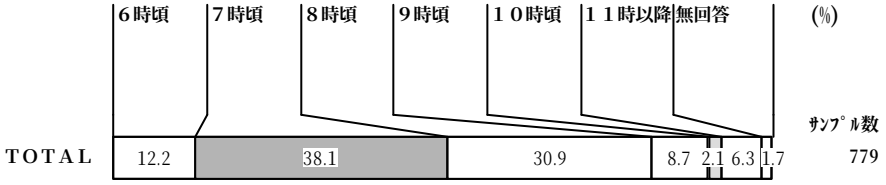


男性保護者の年齢別無回答　N=36 を除く

（11）父親（男性保護者）の出勤時間および帰宅時間（問 11－１）

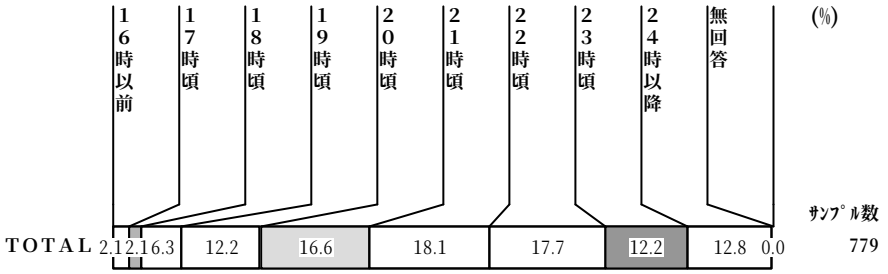
①出勤時間

自宅以外の場所で仕事をしている父親（男性保護者）が仕事のために家を出る時間は、「７時頃」（38.1%）が約 4 割を占めて最も高く、以下、「8 時頃」が 30.9%、「6 時頃」が 12.2%の順となっており、8 時頃までに家を出ている人（81.2%）が全体の約 8 割を占めている。



②帰宅時間

自宅以外の場所で仕事をしている父親（男性保護者）が仕事から帰宅する時間については、「19 時頃」から「24 時以降」までいずれも 15%前後の回答がみられ、出勤時間に比べて帰宅時間は分散している。中でも最も高いのは「21 時頃」（18.1%）や「22 時頃」（17.7%）で、これに「23 時頃」（12.2%）、「24 時以降」（12.8%）をあわせると、帰宅時間が 21 時以降となる人（60.8%）が約 6 割を占めている。



３．子育てと地域社会について

（１）となり近所とのおつきあいの程度（問 12）

となり近所とどの程度のおつきあいをしているかについては、「ときどき立ち話をする」という人が 43.0%で最も多い。次いで「あいさつをする程度」が 32.5%となっており、全体の 8 割近くは、たまたま出会った時に交流する程度にとどまっている。一方、「食事に一緒に行ったり、家族ぐるみでつきあっている」（4.1%）や「困っているときに相談したり助けあったりしている」（8.4%）といったお互いの生活に関わりあうようなつきあい方をしている人は 1 割程度にとどまる。

これを宛名の子どもの年齢別にみると、「ときどき立ち話をする」と「あいさつをする程度」をあわせた割合は、1 歳以上の層ではいずれも 75%前後と、大きな差はみられない。しかし、『0 歳』では「ときどき立ち話をする」と「あいさつをする程度」という人を合わせて 87.6%と、9 割近くにのぼっているほか、「ほとんどつきあいはない」（12.5%）が 1 割を超えており、他の年齢層に比べて近所とのつきあいが浅い状況がうかがえる。また、「家に上がりこんで話しをする」は 2 歳から 5 歳では約 1 割と、他の年齢に比べて高く、「困っているときに相談したり助けあったりしている」は 4 歳以上では 1 割を超え、2 歳以下に比べて高くなっており、子どもの年齢が高くなるに伴い、近所とつきあいが徐々に深くなっていくという状況もうかがえる。

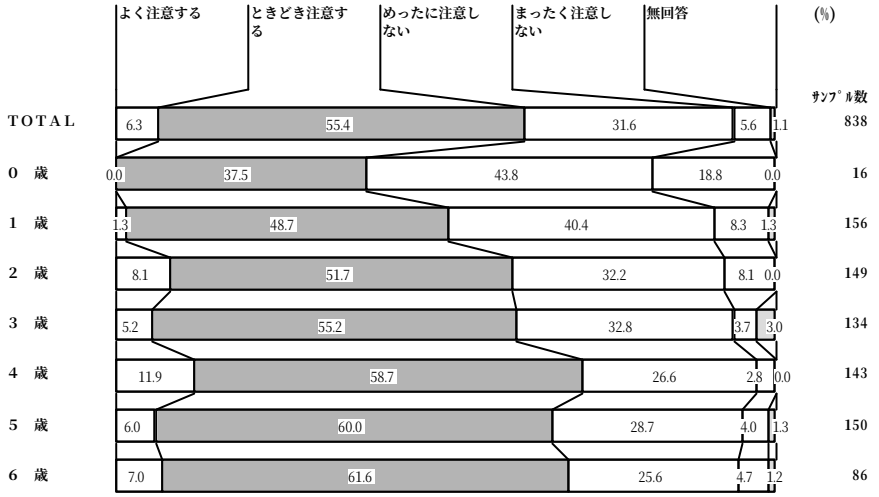
	＊問２４－１　子どもの年齢	N	1 ときどき立ち話をする	2 あいさつをする程度	3 助けあったりしている困っているときに相談したり	4 家に上がりこんで話しをする	5 ほとんどつきあいはない	6 るみでつきあっている食事に一緒に行ったり家族ぐ	7 無回答
0	TOTAL	838	43.0	32.5	8.4	7.4	4.2	4.1	0.6
1	0　歳	16	68.8	18.8	0.0	0.0	12.5	0.0	0.0
2	1　歳	156	40.4	37.8	4.5	5.8	7.7	3.8	0.0
3	2　歳	149	47.7	29.5	6.7	9.4	3.4	3.4	0.0
4	3　歳	134	33.6	37.3	9.0	8.2	5.2	5.2	1.5
5	4　歳	143	41.3	30.1	11.2	9.8	1.4	5.6	0.7
6	5　歳	150	48.7	26.0	10.7	8.0	2.0	4.0	0.7
7	6　歳	86	41.9	37.2	10.5	2.3	4.7	2.3	1.2

宛名の子どもの年齢別の無回答　N=4 を除く

（2）よその子どものいたずらやいじめなどに対しての注意（問 13）

よその子どものいたずらやいじめなどに対しては、「ときどき注意する」という人が 55.4%でもっとも多く、次いで「めったに注意しない」が 31.6%となっている。

これを宛名の子どもの年齢別にみると、「よく注意する」や「ときどき注意する」という割合は子どもの年齢が高くなるほど高くなっており、『6 歳』では、両者をあわせると 68.6%と、全体の 3 分の 2 以上の人は注意をしている。一方、「めったに注意しない」や「まったく注意しない」という割合は子どもの年齢が低いほど高くなっており、『0 歳』では、両者をあわせると 62.6%と、全体の 3 分の 2 近くの人は注意をしていない。



宛名の子どもの年齢別無回答　N=4 を除く

（3）自分の子どもに対し、近所の人にしてもらいたいこと（問 14）（2つまでの制限回答）

自分の子どもに対して、近所の人にやってもらいたいことについては、「いたずらや迷惑をかけていたら注意や報告してくれること」が 82.7%で特に高く、これに「暖かく見守ってくれること」が 44.6%、「緊急時に子どもを一時預かってくれること」が 35.0%で続いている。

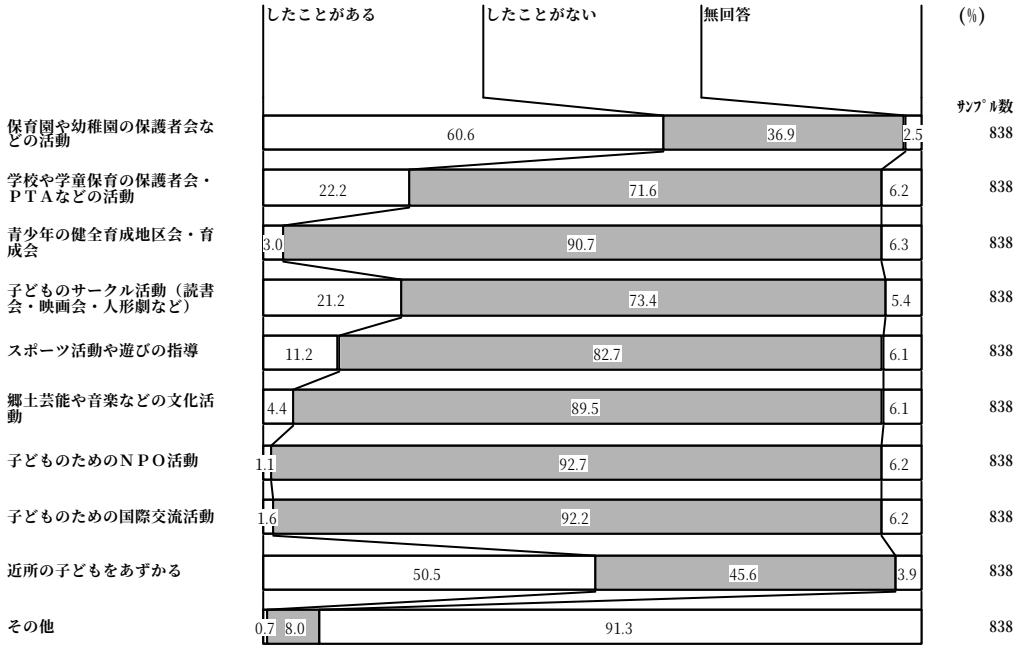
これを宛名の子どもの年齢別にみると、全体では 2 割未満にとどまっている「子育てについて気軽に相談にのってくれること」は、『0 歳』では 31.3%にのぼって 3 位を占めているほか、『1 歳』でも 23.1%と、低年齢児において若干高くなっている。

	＊問２４－１　子どもの年齢	N	1 いたずらや迷惑をかけていたら報告してくれること	2 暖かく見守ってくれること	3 緊急時に子どもを一時預かってくれること	4 子育てについて気軽に相談にのってくれること	5 スポーツや遊びの指導をしてくれること	6 その他	7 かかわってほしくない	8 無回答
0	TOTAL	838	82.7	44.6	35.0	15.2	3.5	0.5	1.0	1.1
1	0 歳	16	75.0	37.5	6.3	31.3	6.3	0.0	12.5	0.0
2	1 歳	156	80.8	42.9	33.3	23.1	2.6	0.0	0.6	0.6
3	2 歳	149	79.2	51.0	32.9	15.4	2.0	0.7	1.3	0.7
4	3 歳	134	78.4	41.8	35.8	14.2	8.2	0.7	0.7	3.0
5	4 歳	143	86.0	39.9	38.5	13.3	2.1	0.0	0.0	0.0
6	5 歳	150	89.3	47.3	36.7	9.3	1.3	0.7	0.0	0.7
7	6 歳	86	83.7	44.2	37.2	11.6	5.8	1.2	2.3	2.3

宛名の子どもの年齢別無回答　N=4 を除く

（４）地域の子どもたちのための活動への参加状況（問 15）

子どもたちのための地域活動への参加状況をみると、経験度（「したことがある」という割合）が最も高いのは『保育園や幼稚園の保護者会などの活動』（60.6%）で、次いで『近所の子どもをあずかる』（50.5%）となっており、いずれも半数以上の人が経験している。以下、『学校や学童保育の保護者会、ＰＴＡなどの活動』が 22.2%、『子どものサークル活動』が 21.2%、『スポーツ活動や遊びの指導』が 11.2%の順となっている。なお、『子どものための NPO 活動』や『子どものための国際交流活動』を「したことがある」という人はいずれも 1～2%、『青少年の健全育成地区会・育成会』や『郷土芸能や音楽などの文化活動』を「したことがある」という人はいずれも 5%弱となっている。

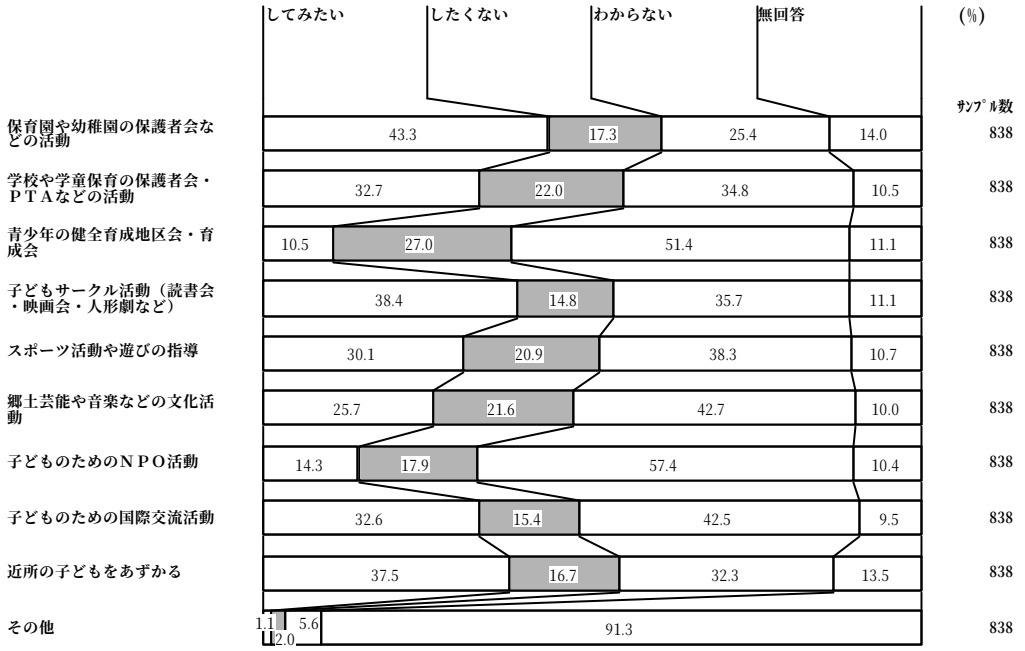


（５）地域の子どもたちのための活動への今後の参加意向（問 15）

子どもたちのための地域活動への今後の参加希望の状況をみると、活動経験率で上位を占めている『保育園や幼稚園の保護者会などの活動』と『近所の子どもをあずかる』は、参加希望率（「してみたい」という割合）も 4 割前後（順に 43.3%、37.5%）にのぼって他の活動に比べても高くなっているが、その割合は参加経験率を下回っているものである。

また、参加経験率が１～2 割となっている『学校や学童保育の保護者会、ＰＴＡなどの活動』『子どものサークル活動』『スポーツ活動や遊びの指導』の参加希望率をみると、いずれも 3～4 割（順に 32.7%、38.4%、30.1%）となっており、現状における参加経験率を若干上回っている。

一方、参加経験率がきわめて低い『子どものための NPO 活動』『子どものための国際交流活動』『青少年の健全育成地区会・育成会』『郷土芸能や音楽などの文化活動』の４つの活動の中で参加意向が最も高いのは『子どものための国際交流活動』で、「してみたい」（32.6%）が 3 割を超え、現状における参加経験率を大きく上回っている。

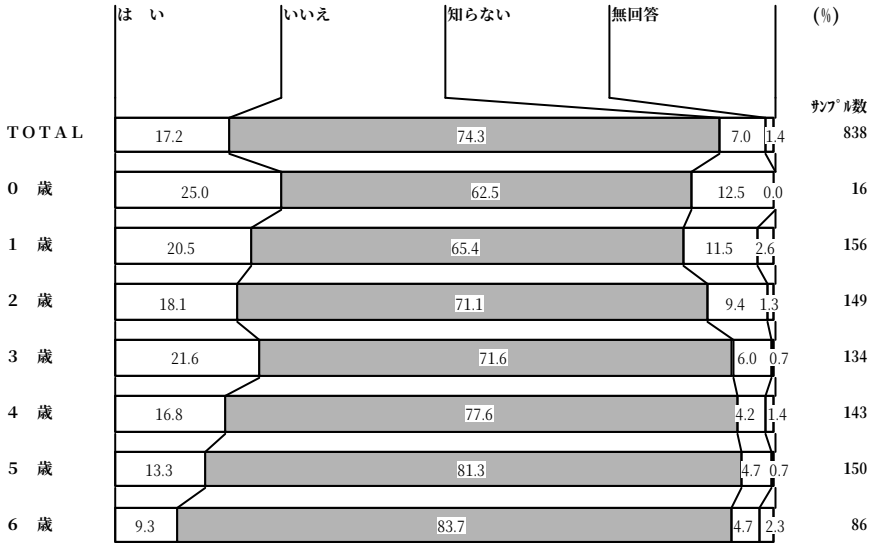


（６）子育てサークルへの参加状況（問 16）

子育てサークルに参加している人は 17.2%と、2 割弱である。なお、「知らない」という人は 7.0%みられる。

これを宛名の子どもの年齢別にみると、参加割合は子どもの年齢が低いほど高く、特に未就園児の年齢に該当する（幼稚園の場合）3 歳以下では 2 割前後と、4 歳以上に比べて高くなっている。しかし、「知らない」とする割合も子どもの年齢が低いほど高く、2 歳以下では「知らない」が 1 割前後を占めている。

以上の結果より、子どもの年齢が高くなると、子育てサークルの存在は知っているものの、参加はしていない人が多くなる。一方、子どもの年齢が低くなるほど、参加割合だけでなく、「知らない」とする割合も高くなっていることから、子どもの年齢が低い場合には、子育てサークルの存在を知らないために参加していない人もいる状況が想定される。



宛名の子どもの年齢別無回答　N=4 を除く

（7）子育てサークルの情報入手先・紹介先（問 16－1）（複数回答）

子育てサークルに参加している人の、その情報の入手先・紹介先については、「友人・知人」（48.6%）が約 5 割で最も高く、以下、「児童館」が 41.7%、「広報西東京市」が 25.7%、「公民館」が 17.4%で続いている。

		N	1 友人・知人	2 児童館	3 広報西東京市	4 公民館	5 幼稚園	6 コール田無	7 子育て情報誌など	8 母子保健センター	9 図書館	10 インターネット	11 保健福祉総合センター	12 保育園	13 姉妹自分または配偶者の親や兄弟	14 その他	15 無回答
0	TOTAL	144	48.6	41.7	25.7	17.4	6.3	5.6	5.6	4.2	3.5	2.8	2.1	1.4	0.7	4.2	0.0

（8）子育てサークルに参加してよかったこと（問 16－2）（複数回答）

子育てサークルに参加してよかったことを聞いた結果、「情報の交換ができてよかった」が 71.5%で最も高くなっている。以下、「地域に友だちができてよかった」が 65.3%、「子どもの遊び相手ができてよかった」が 61.8%となっており、子育てサークルに参加した多くの人が、情報収集にとどまることなく、子育て仲間をつくることができたと感じている状況がうかがえる。

		N	1 情報の交換ができてよかった	2 地域に友だちができてよかった	3 子どもの遊び相手ができてよかった	4 子育てに自信が持てるようになった	5 その他	6 無回答
0	TOTAL	144	71.5	65.3	61.8	17.4	5.6	0.7

（9）子育てサークルに参加してよくなかったこと（問 16－3）（複数回答）

子育てサークルに参加してよくなかったことを聞いた結果、「特にない」（70.8%）とする人が約 7 割を占めている。なお、よくなかったことで最も高いのは「親同士の関係に気をつかってストレスになった」の 16.7%である。

		N	1 親同士の関係に気をつかってストレスになった	2 こども同士のトラブルで嫌な思いをすることが多かった	3 子どもを比較してストレスを感じた	4 その他	5 特にない	6 無回答
0	TOTAL	144	16.7	6.3	4.2	4.2	70.8	1.4

（10）安心して子育てするために地域で取り組んでほしいこと（問 17）

（３つまでの制限回答）

安心して子育てをするために地域で必要とされる取り組みについては、「地域の親が気軽に情報交換や相談できる場」（59.2%）が約 6 割で最も高く、これに「学校や親が子どもの身の安全や非行防止の活動をする」（49.2%）、「学校や児童館などが子どもの自主的な活動を育成・支援する」（45.0%）がいずれも 5 割弱で続いている。

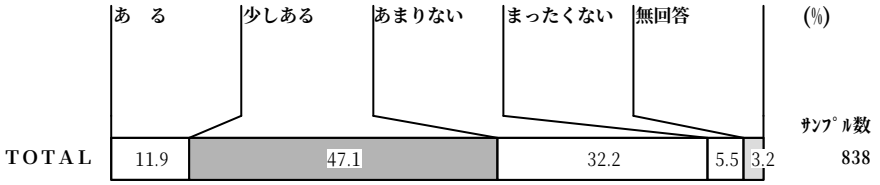
これを宛名の子どもの年齢別にみると、上位を占める項目に顕著な差はみられないが、「学校や親が子どもの身の安全や非行防止の活動をする」と「学校や児童館などが子どもの自主的な活動を育成・支援する」は子どもの年齢が高くなるほど高く、「地域の親が気軽に情報交換や相談できる場」と「子育てサークルなどの自主的な活動を育成・支援する」は子どもの年齢が低いほど高いという傾向がみられる。

	＊問２４－１　子どもの年齢	N	1 地域の親・保護者が気軽に情報交換や相談できる場	2 学校や親が子どもの身の安全や非行防止の活動をする	3 学校や児童館などが子どもの自主的な活動を育成・支援	4 子育てサークルなどの自主的な活動を育成・支援する	5 子どもの活動に親・保護者の積極的な参加を促す	6 ボランティアが子どもの活動を指導するよう育成	7 子どもの社会参加の機会づくりのため親の参加を促す	8 その他	9 特に必要ない	10 無回答
0	TOTAL	838	59.2	49.2	45.0	19.9	15.5	14.9	12.9	2.5	1.9	4.4
1	0　歳	16	68.8	43.8	43.8	43.8	12.5	0.0	18.8	0.0	0.0	0.0
2	1　歳	156	72.4	46.2	41.0	26.9	10.9	13.5	9.0	1.3	1.9	3.2
3	2　歳	149	60.4	42.3	44.3	22.8	14.1	11.4	14.1	0.7	2.7	6.7
4	3　歳	134	57.5	53.0	37.3	17.2	22.4	17.9	14.9	3.7	1.5	3.0
5	4　歳	143	54.5	49.7	46.2	16.8	12.6	16.1	17.5	2.8	0.7	4.2
6	5　歳	150	50.0	50.7	50.7	16.0	16.0	16.7	10.7	3.3	1.3	6.7
7	6　歳	86	59.3	55.8	54.7	15.1	17.4	17.4	9.3	3.5	4.7	2.3

宛名の子どもの年齢別無回答　N=4 を除く

（11）保育や相談などのボランティアへの参加意向（問 18）

子育ての経験を活かして、保育や相談のボランティアとして参加する意志が「ある」（11.9%）という人は約 1 割であるが、これに「少しある」（47.1%）をあわせると 59.0%と、多少なりとも保育・相談ボランティアへの参加の気持ちを持っている人は全体の約 6 割にのぼっている。



（12）子育て支援施設の利用状況（問 19）

地域で利用できる子育てに関わる 11 の施設について、それぞれの利用・認知状況を聞いている。その結果、利用率が最も高いのは『図書館』と『児童館』で、いずれも「利用したことがある」（順に 75.2%、74.5%）が約 4 分の 3 にのぼっている。以下、利用率が高い順に『母子保健センター・保健福祉総合センター』（67.7%）、『休日診療・歯科診療』（55.8%）、『保育園が開催する行事・相談』（39.6%）、『保健所・保健相談所』（39.5%）、『公民館』（38.8%）となっている。これらの施設の多く（『保育園が開催する行事・相談』を除く）は、「利用したことがある」に「知っているが利用したことがない」をあわせた認知率でみても 9 割前後と高く、保健・医療関係の施設と、図書館や公民館などの利用者層が幅広い地域施設は、利用率も認知率も高くなっている。

一方、認知率が最も低いのは『病後児保育室』と『ピッコロハウス』で、いずれも「知らない」（順に 53.6%、51.3%）が 5 割を超えており、これに『保育園の園庭開放』（35.1%）と『保育園が開催する行事・相談』（33.7%）が 3 割強で続いている。

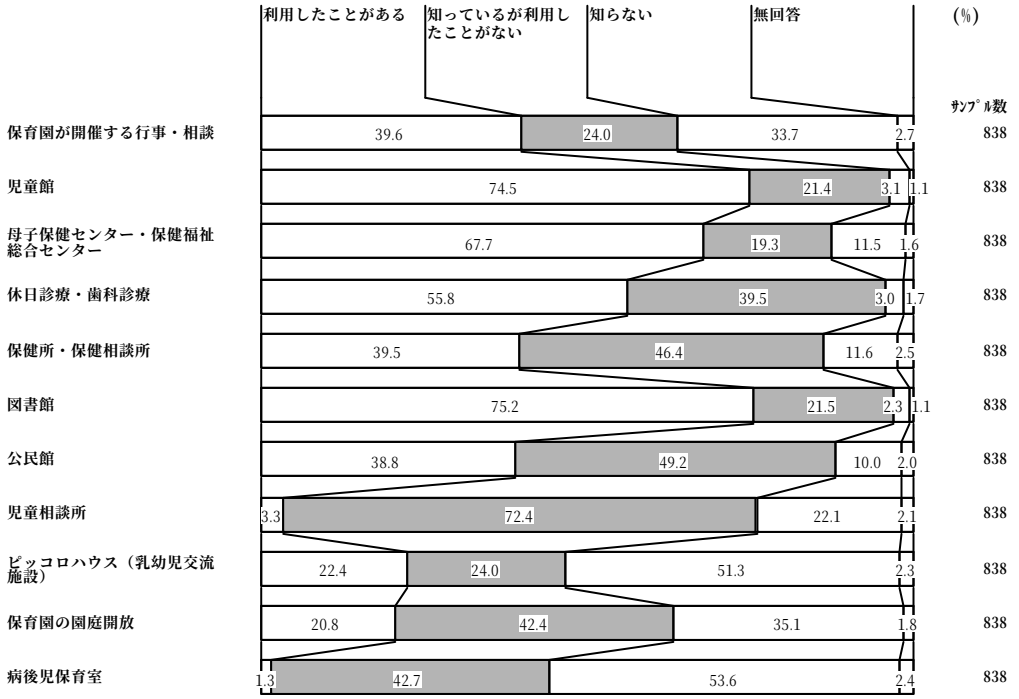
なお、認知率が低いこれら 4 施設のうち、『ピッコロハウス』と『保育園が開催する行事・相談』に関しては、認知率が（順に）46.4%、63.6%であるのに対し、利用率は（順に）22.4%、39.6%であることから、知っている人のうち半数以上が利用していることになり、この 2 施設に関しては、認知率の低さが利用率を低くしている可能性も想定できる。

また、『児童相談所』と『病後児保育室』は利用率が数%（順に 3.3%、1.3%）と、特に低くなっているが、認知率は 5～7 割前後（順に 75.7%、44.0%）にのぼっていることから、この 2 施設の利用率の低さは、認知率の低さによるものとは考えられない。

注）利用率：「利用したことがある」とする割合

認知率：「利用したことがある」と「知っているが利用したことがない」を合わせた割合

非認知率：「知らない」とする割合

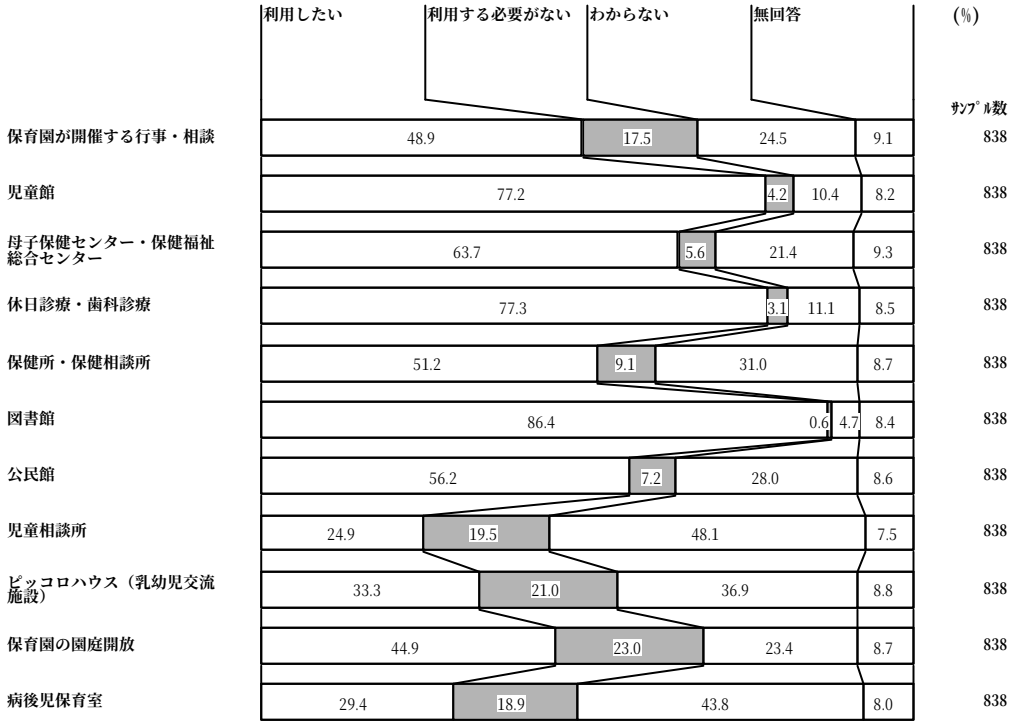


（13）子育て支援施設の今後の利用意向（問 19）

地域で利用できる子育てに関わる 11 の施設について、それぞれの今後の利用意向を聞いている。その結果、利用意向が特に高いのは『図書館』『休日診療・歯科診療』『児童館』で、いずれも「利用したい」（順に 86.4%、77.3%、77.2%）が 8 割前後にのぼっており、これに『母子保健センター・保健福祉センター』（63.7%）、『公民館』（56.2%）、『保健所・保健相談所』（51.2%）が 5～6 割で続いており、現在の利用率が高い施設は今後の利用意向も高く、利用意向が現在の利用率を大きく下回る施設はない。

次いで利用意向が高いのは『保育園が開催する行事・相談』と『保育園の園庭開放』で、「利用したい」（順に 48.9%、44.9%）は 45%前後にのぼり、現在の利用率を大きく上回っている。

一方、『児童相談所』『ピッコロハウス』『病後児保育室』は、「利用したい」（24.9%、33.3%、29.4%）とする割合よりも「わからない」（順に 48.1%、36.9%、43.8%）とする割合が高くなっており、施設の内容が十分に理解されていない状況がうかがえる。

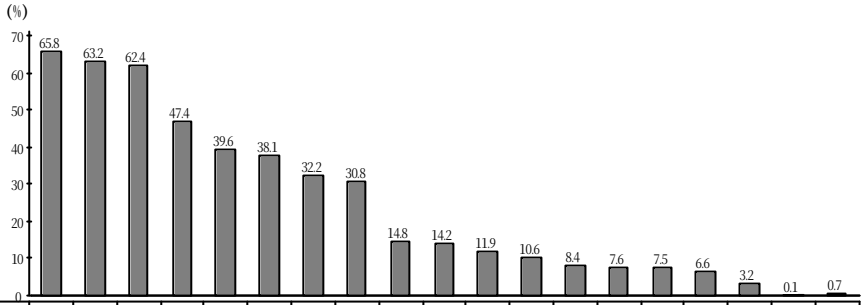


（14）子どものために希望する遊び場や施設（問 20）（5 つまでの制限回答）

子どものための遊び場や施設で特に要望が高いのは、「雨の日でも遊べる施設」（65.8%）と「運動ができる大きな広場や公園」（63.2%）、「雑木林や川などの自然にふれられる遊び場」（62.4%）で、いずれも 6 割以上の人が要望している。以下、「砂場やブランコなどが整備された公園」（47.4%）が 5 割弱、「昆虫や動物などと親しめる遊び場」（39.6%）、「図書館・公民館・児童館などの公共施設」（38.1%）が約 4 割、「体育館やプールの施設」（32.2%）、「ボール遊びができる公園」（30.8%）が約 3 割となっており、自然体験ができる場所や体全体を使って遊べる施設を求める声が高くなっている。

これを宛名の子どもの年齢別にみると、『2 歳』と『3 歳』では「雨の日でも遊べる施設」

（73.2%、70.9%）が 7 割を超えて一層高くなっている。また、「運動ができる大きな広場や公園」と「砂場やブランコなどが整備された公園」は、低年齢児ほど高いという傾向がみられ、『0 歳』（いずれも 68.8%）では両者とも約 7 割にのぼって 1 位となっている。一方、『4 歳』と『5 歳』では「雑木林や川などの自然にふれられる遊び場」（66.4%、64.0%）が約 65%にのぼり、「雨の日でも遊べる施設」と並んで最も高くなっている。また、『6 歳』では「ボール遊びができる公園」（48.8%）が約 5 割にのぼり、5 歳以下に比べて顕著に高くなっている。



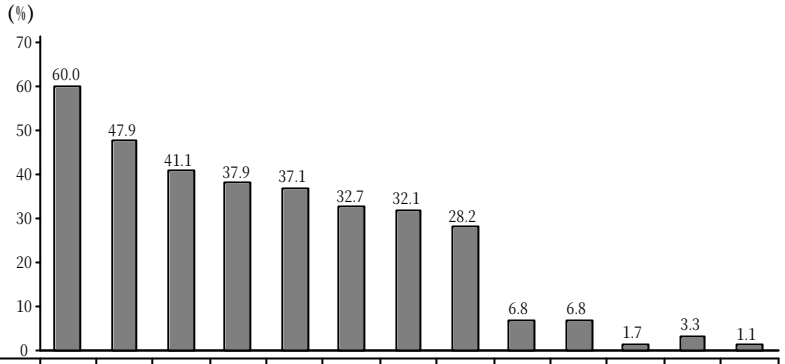
	＊問２４－１　子どもの年齢	N	1 雨の日でも遊べる施設	2 運動ができる大きな広場や公園	3 雑木林や川などの自然にふれられる遊び場	4 砂場やブランコなどが整備された公園	5 昆虫や動物などと親しめる遊び場	6 図書館・公民館・児童館などの公共施設	7 体育館やプールの施設	8 ボール遊びができる公園	9 大人が遊びを教えてくれるところ	10 友だちとおしゃべりや飲食ができる施設	11 音楽活動などが自由にできる施設	12 サッカーや野球ができるグラウンド	13 宿泊ができる施設	14 演劇や美術などの文化活動ができる施設	15 料理やパーティーができるところ	16 静かに勉強ができる自習室のようなスペース	17 その他	18 特にない	19 無回答
0	TOTAL	838	65.8	63.2	62.4	47.4	39.6	38.1	32.2	30.8	14.8	14.2	11.9	10.6	8.4	7.6	7.5	6.6	3.2	0.1	0.7
1	0　歳	16	56.3	68.8	25.0	68.8	25.0	43.8	43.8	25.0	6.3	18.8	12.5	12.5	12.5	0.0	6.3	0.0	6.3	6.3	6.3
2	1　歳	156	60.3	66.7	66.0	54.5	38.5	39.1	33.3	31.4	12.2	14.7	10.9	9.0	7.7	9.6	2.6	6.4	2.6	0.0	0.6
3	2　歳	149	73.2	71.1	62.4	51.0	43.6	38.9	27.5	22.1	12.1	10.7	9.4	8.1	9.4	4.0	9.4	4.0	3.4	0.0	0.7
4	3　歳	134	70.9	57.5	59.7	50.7	41.0	34.3	32.8	25.4	17.2	12.7	11.9	11.2	6.0	4.5	7.5	11.2	3.0	0.0	0.0
5	4　歳	143	63.6	62.9	66.4	39.9	42.0	38.5	33.6	34.3	12.6	11.9	11.2	12.6	9.1	9.8	9.1	5.6	2.8	0.0	0.0
6	5　歳	150	65.3	54.0	64.0	42.0	36.0	38.7	30.7	30.7	20.7	17.3	16.0	8.7	8.7	10.0	10.0	7.3	3.3	0.0	1.3
7	6　歳	86	59.3	67.4	58.1	38.4	39.5	37.2	36.0	48.8	16.3	18.6	11.6	17.4	8.1	9.3	7.0	5.8	4.7	0.0	1.2

宛名の子どもの年齢別無回答　N=4 を除く

（15）地域に望む子育て相談・情報提供サービス（問 21）（5 つまでの制限回答）

身近な地域で、子育てに関する相談・情報提供などのサービスを行う所ができた場合に望むサービスで最も高いのは、「子育て中の親が交流して情報交換などができる」の 60.0%で、これに、「子どもに遊びを教えてくれる」（47.9%）が 5 割弱、「専門家などが相談にのってくれる」（41.1%）、「夜間や休日にも相談を受け付けたり、情報が得られる」（37.9%）、「電話で相談したり、情報を得ることができる」（37.1%）が 4 割前後で続いている。

これを宛名の子どもの年齢別にみると、5 歳以下では「子育て中の親が交流して情報交換などができる」が 1 位を占め、その割合は子どもの年齢が低いほど一層高くなっている。一方、「子どもに遊びを教えてくれる」は年齢が高くなるほど高くなっており、『6 歳』では 54.7%にのぼって 1 位となっている。また、「夜間や休日にも相談を受け付けたり、情報が得られる」「電話で相談したり、情報を得ることができる」「インターネットを利用して相談・情報が得られる」は、『0 歳』では他の年齢に比べて高くなっており、子どもの年齢が低いほど、気軽に相談を受けたり情報を得ることができるサービスを望む声が高いことがうかがえる。

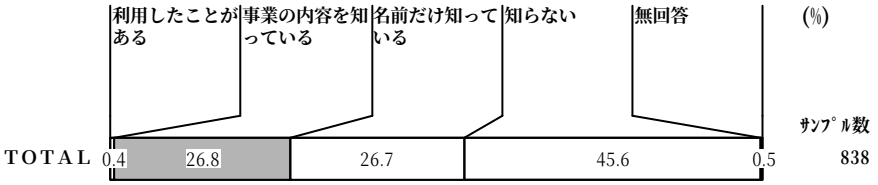


	＊問２４－１　子どもの年齢	N	1 交換などができる子育て中の親が交流して情報	2 子どもに遊びを教えてくれる	3 れる専門家などが相談にのってく	4 けたり情報が得られる夜間や休日にも相談を受け付	5 ことができる電話で相談したり情報を得る	6 カウンセリングが受けられる	7 ことができる施設で相談したり情報を得る	8 談・情報提供が得られるインターネットを利用して相	9 子どもにしつけをしてくれる	10 くれる家庭訪問をして相談にのって	11 その他	12 特にない	13 無回答
0	TOTAL	838	60.0	47.9	41.1	37.9	37.1	32.7	32.1	28.2	6.8	6.8	1.7	3.3	1.1
1	0　歳	16	68.8	25.0	43.8	50.0	62.5	31.3	37.5	43.8	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0
2	1　歳	156	69.2	47.4	41.0	35.3	35.3	27.6	46.2	34.6	5.8	7.7	0.0	1.3	0.6
3	2　歳	149	67.1	46.3	39.6	38.3	37.6	29.5	28.2	26.8	11.4	6.0	2.7	4.0	1.3
4	3　歳	134	56.0	45.5	39.6	31.3	35.8	32.1	23.1	29.1	6.0	8.2	3.0	4.5	0.0
5	4　歳	143	58.7	46.2	45.5	42.0	39.9	36.4	30.8	27.3	5.6	9.8	2.8	0.7	2.8
6	5　歳	150	56.0	52.7	37.3	40.7	37.3	33.3	30.0	24.7	5.3	5.3	0.7	6.0	0.0
7	6　歳	86	46.5	54.7	41.9	40.7	29.1	39.5	32.6	23.3	8.1	1.2	1.2	4.7	2.3

宛名の子どもの年齢別無回答　N=4 を除く

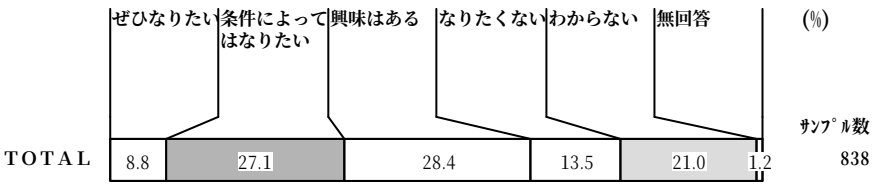
（16）ファミリー・サポート・センターの認知状況（問 22）

ファミリー・サポート・センターの存在については、「知らない」（45.6%）という人が半数近くを占め、「名前だけ知っている」（26.7%）という人と、「事業の内容を知っている」（26.8%）という人はそれぞれ約 4 分の 1 となっている。



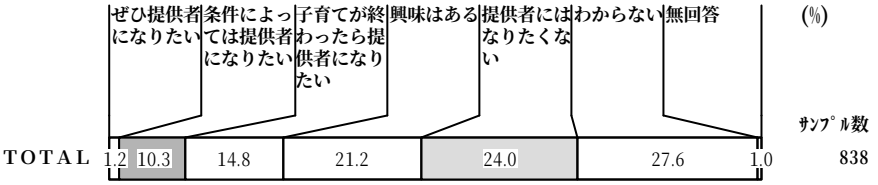
（17）ファミリー・サポート・センターの利用会員希望の有無（問 22－1）

ファミリー・サポート・センターの利用会員（預ける方）に「ぜひなりたい」（8.8%）という人は約 1 割である。これに「条件によってはなりたい」（27.1%）や「興味はある」（28.4%）といった潜在ニーズをあわせると、利用会員になる可能性のある人は 64.3%にのぼる。



（18）ファミリー・サポート・センターの登録（提供者）希望の有無（問 22－2）

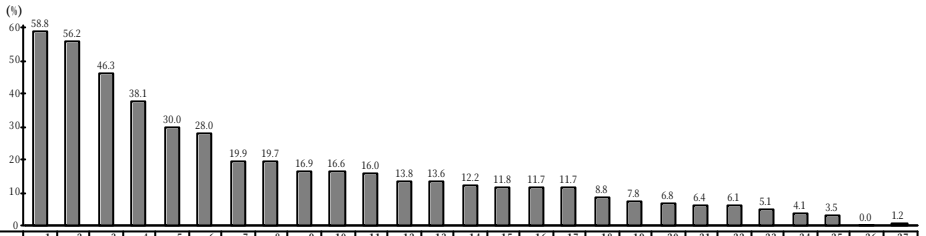
ファミリー・サポート・センターの提供者（預かる方）に「ぜひ（提供者に）なりたい」という人は 1.2%にとどまる。これに「条件によっては提供者になりたい」（10.3%）や「子育てが終わったら提供者になりたい」（14.8%）、「興味はある」（21.2%）をあわせると、提供者として登録をする可能性のある人は 47.5%となっている。



（19）安心して子育てをするために市に期待する施策（問 23）（５つまでの制限回答）

子どもを安心して生み育てるために市に要望される施策については、「夜間や休日における小児科の医療体制の整備」が 58.8%で最も高く、これに「医療費の助成」が 56.2%で続いており、十分な小児医療を求める声が高い。以下、「養育費や教育費の経済的負担の軽減」が 46.3%、「児童手当を充実する」が 38.1%となっており、子育てにともなう費用への援助と医療に関わる内容が上位を占めている。なお、情報提供・相談体制やハード面の整備等に関しての要望の中で最も高いのは、「ベビーベッドを駅や公共施設へ設置、歩道などの整備」（30.0%）と「子どもが利用しやすくて集える遊び場や施設の整備」（28.0%）で、いずれも約 3 割となっている。

これを宛名の子どもの年齢別にみると、2 歳以上ではいずれも、1 位「夜間や休日における小児科の医療体制の整備」、2 位「医療費の助成」となっている。なお、『1 歳』では「医療費の助成」（59.0%）が「夜間や休日における小児科医療体制の整備」（51.9%）を上回って 1 位となっているのに対し、『0 歳』では「医療費の助成」は 31.3%にとどまり、他の年齢層に比べても顕著に低く、「医療費の助成」に関しては、『0 歳』と『1 歳』で回答率に大きな差がみられる。また、ハード面の中では要望が高い「ベビーベッドを駅や公共施設へ設置、歩道などの整備」と「子どもが利用しやすくて集える遊び場や施設の整備」のうち、前者は子どもの年齢が低いほど高く、後者は子どもの年齢が高くなるほど高くなっている。そのほか、「乳幼児連れでも安心して遊べる場の整備」は全体では 2 割未満にとどまっているが、『0 歳』では 50.0%、『1 歳』では 28.2%にのぼっており、低年齢児では要望が高くなっている。



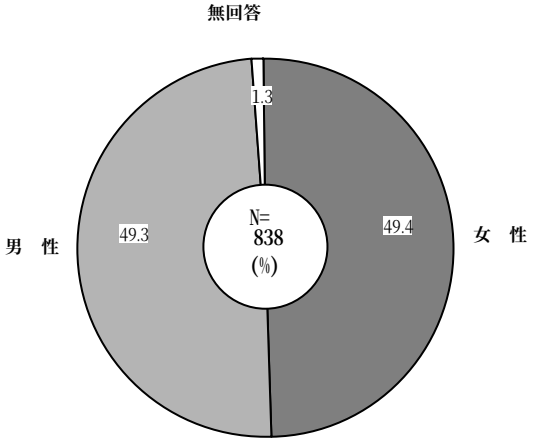
	※問２４－１　子どもの年齢	N	1 医療体制の整備 夜間や休日にお	2 医療費の助成	3 養育費の援助や教育費の経済的負担	4 児童手当を充実する	5 ベビーベッド・歩道などの整備 設置や公共施設	6 子どもが利用しやすくて集える遊び場や施設の整備	7 仕事や家庭の事情で保育時間の一時的な預かり制度	8 いじめや非行防止等、健全育成のための対策を充実	9 乳幼児の整備	10 次世代のための環境問題への対策を推進 自然保護と	11 疾病などで養育できない時 短期間預かってくれる制度・	12 妊産婦や乳幼児の健康診査・母子保健体制の整備	13 家族やともに過ごす時間を増 家事・育児・労働時間の短縮	14 夜10時頃まで子どもをあず けられる制度	15 子育て に関する申請手続き・相談・援助等窓口の一体化	16 公営住宅 による住環境の整備や賃貸金融資など	17 講演会やイベント参加のために会場の保育機能を整備	18 できる子どもが利用 場の整備 気軽に低料金で	19 受験競争の緩和などゆとりある教育の推進	20 育児休暇を普及する 内閣府を中心に	21 子育てに関する情報提供の充実	22 児童虐待を防止するための体制整備	23 家事や育児への男女共同参加の意識を啓発する	24 地域における親のサークルなどを支援する	25 その他	26 特にない	27 無回答
0	TOTAL	838	58.8	56.2	46.3	38.1	30.0	28.0	19.9	19.7	16.9	16.6	16.0	13.8	13.6	12.2	11.8	11.7	11.7	8.8	7.8	6.8	6.4	6.1	5.1	4.1	3.5	0.0	1.2
1	0 歳	16	62.5	31.3	50.0	31.3	56.3	25.0	18.8	18.8	50.0	6.3	12.5	18.8	6.3	18.8	12.5	25.0	0.0	6.3	0.0	6.3	6.3	6.3	0.0	6.3	6.3	0.0	0.0
2	1 歳	156	51.9	59.0	50.0	41.0	44.2	21.8	20.5	12.8	28.2	10.3	10.9	19.2	19.9	10.9	12.8	13.5	13.5	3.8	5.1	6.4	10.9	4.5	5.8	3.8	3.8	0.0	0.0
3	2 歳	149	58.4	49.7	45.6	36.9	32.9	25.5	25.5	16.1	19.5	18.1	16.8	13.4	12.1	18.1	12.1	10.1	13.4	4.0	4.0	8.1	4.7	8.1	4.0	4.7	4.0	0.0	2.0
4	3 歳	134	57.5	53.7	50.0	39.6	33.6	24.6	18.7	17.9	17.9	14.9	14.9	10.4	13.4	10.4	13.4	13.4	11.9	7.5	9.7	5.2	7.5	4.5	3.7	4.5	4.5	0.0	2.2
5	4 歳	143	65.7	60.8	48.3	38.5	23.8	30.1	19.6	19.6	6.3	16.8	20.3	11.2	10.5	10.5	11.2	9.8	9.8	14.7	7.7	8.4	3.5	8.4	9.8	3.5	2.8	0.0	0.0
6	5 歳	150	60.0	58.0	43.3	40.0	17.3	34.0	16.7	29.3	9.3	20.7	15.3	14.7	14.0	12.0	12.7	9.3	11.3	14.0	13.3	3.3	5.3	7.3	3.3	4.0	2.0	0.0	1.3
7	6 歳	86	62.8	60.5	36.0	29.1	20.9	36.0	17.4	23.3	15.1	23.3	20.9	12.8	11.6	9.3	7.0	14.0	11.6	9.3	8.1	11.6	5.8	2.3	4.7	3.5	3.5	0.0	1.2

宛名の子どもの年齢別無回答　N=4 を除く

４．宛名の子どもの育て方について

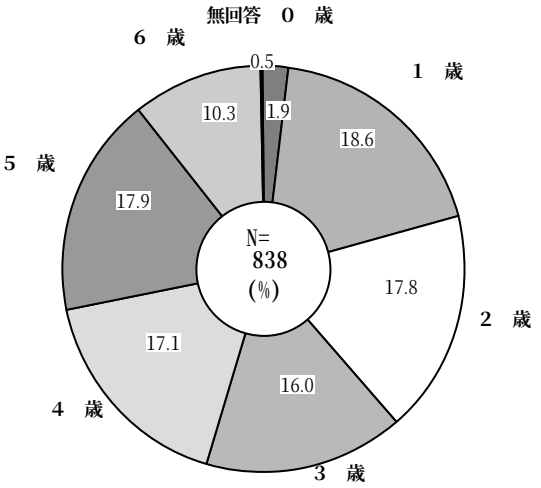
（１）宛名の子どもの性別（問 24）

宛名の子どもの性別は、「女性」が 49.4%、「男性」が 49.3%で、男女がほぼ同数の構成となっている。



（２）宛名の子どもの年齢（問 24）

宛名の子どもの年齢は、「0 歳」が 1.9%と顕著に少ないほか、「6 歳」も 10.3%と若干少ないものの、1 歳から 5 歳に関しては、各年齢層とも 17%前後の構成となっている。



（３）宛名の子どもの保育状況（問 25）（複数回答）

宛名の子どもの現在の保育場所を複数回答で聞いている。その結果、「自宅などで保護者や家族がみている」（38.5%）が約 4 割で最も高く、次いで「幼稚園に通っている」が 33.7%、「保育園に通っている」が 20.2%となっている。なお、「同居していない親族や知人にみてもらっている」（2.1%）や「無認可保育施設に通っている」（2.0%）はいずれも約 2%みられる。

これを母親の職業別にみると、『勤め人（常勤）』では「保育園に通っている」（81.0%）が約 8 割を占めている。また、『自営業・自由業・家族従業員』と『パート・アルバイト』では「保育園に通っている」（40.0%、51.1%）が 4～5 割で最も高いものの、「幼稚園に通っている」（28.6%、23.9%）や「自宅などで保護者や家族がみている」（20.0%、8.7%）もそれぞれ 1～3 割みられる。一方、『無職』では「自宅などで保護者や家族がみている」（51.6%）が約 5 割で最も高く、次いで「幼稚園に通っている」（41.3 %）が約 4 割となっている。なお、「無認可保育施設に通っている」という割合は、『勤め人（常勤）』と「パート・アルバイト」ではいずれも約 5%みられる。

	＊問８　母親（女性保護者）の職業	N	1 自宅などで保護者や家族がみている	2 幼稚園に通っている	3 保育園に通っている	4 同居していない親族や知人にみてもらっている	5 無認可保育施設に通っている	6 心身障害幼児通園施設に通っている	7 無回答
0	TOTAL	838	38.5	33.7	20.2	2.1	2.0	0.1	7.2
1	勤め人（常勤）	121	5.0	6.6	81.0	3.3	5.0	0.0	4.1
2	自営業・自由業・家族従業員	35	20.0	28.6	40.0	5.7	2.9	0.0	8.6
3	パート・アルバイト	92	8.7	23.9	51.1	6.5	5.4	0.0	10.9
4	内職・在宅勤務	22	40.9	36.4	18.2	0.0	4.5	0.0	4.5
5	無職（専業主婦含む）	562	51.6	41.3	0.9	1.1	0.7	0.2	7.3
6	その他	3	33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0

女性保護者の職業別無回答　N=3 を除く

（４）無認可保育施設利用の理由（問 26）（3 つまでの制限回答）

無認可保育施設を利用している人（問 25 参照）にその理由を聞いている。その結果、「保育内容がよいと思ったから」が 52.9%で最も高くなっているものの、次いで「保育園に空きがなかったから」が 29.4%となっており、保育園を希望しているものの、入所困難なために無認可保育施設を利用している人も 3 割程度みられる。

		N	1 保育内容がよいと思ったから	2 保育園に空きがなかったから	3 無認可保育施設は保育料が安いから	4 無認可保育施設はすぐみてくれるから	5 保育園の入所要件を満たしていなかったから	6 勤務時間帯や曜日が保育園では合わないから	7 保育園が遠かったり通勤上で不便だから	8 産休明けや０歳児を受け入れなかったから	9 無回答
0	TOTAL	17	52.9	29.4	17.6	11.8	5.9	5.9	0.0	0.0	11.8

（５）同居していない親族や知人にみてもらっている理由（問 27）（3 つまでの制限回答）

同居していない親族や知人にみてもらっている人（問 25 参照）にその理由を聞いている。その結果、「親類や知人の方が安心だから」が 55.6%で最も高くなっているものの、次いで「保育園に空きがなかったから」が 27.8%となっており、無認可保育施設利用者の理由と同様に、保育園を希望しているものの、やむを得ず親類や知人に預けている人が 3 割程度みられる。また、「施設が遠かったり通勤上で不便だから」「他の施設の保育料が高いから」「預かり時間や曜日と勤務時間帯や曜日が合わないから」といった、保育施設では保育条件が合致しないために親類や知人に預けているという人も若干みられる。

		N	1 親類や知人の方が安心だから	2 保育園に空きがなかったから	3 便だから 施設が遠かったり通勤上で不	4 他の施設の保育料が高いから	5 帯や曜日が合わないから 預かり時間や曜日と勤務時間	6 いなかったから 保育園の入所要件を満たして	7 ったから 無認可保育施設に空きが無か	8 てくれなかったから 産休明けや0歳児を受け入れ	9 無回答
0	TOTAL	18	55.6	27.8	22.2	22.2	22.2	11.1	0.0	0.0	11.1

（6）保育施設を利用していて困ることや不満に思うこと（問 28）（複数回答）

幼稚園、保育園、無認可保育施設、心身障害幼児通園施設のいずれかを利用している人（問 25 参照）に、保育してもらっていて困ることや不満に思うことを聞いている。その結果、最も高いのは「子どもが病気のときに利用できない」（25.6%）で、約 4 分の 1 の人が不都合を感じている。そのほかの内容はいずれも 1 割前後となっており、不満や不都合の内容が多岐に渡っている。一方、「特にない」と「無回答」をあわせると全体の約 4 割にのぼっており、半数近くの人は明確な不満を抱いていない。また、「その他」が 16.8%みられるが、その具体的内容としては、「保育時間が短い」や「保育料が高い」といった意見が複数見受けられる。

		N	1 きない 子どもが病気のときに利用で	2 日曜日・祭日に利用できない	3 ない 行事が平日なので都合がつか	4 保育の時間が合わない	5 保育士との交流が少ない	6 親同士の交流がしにくい	7 くない 保育・教育の内容があまりよ	8 い 給食やおやつの内容が良くな	9 土曜日の午後に利用できない	10 その他	11 特にない	12 無回答
0	TOTAL	469	25.6	9.4	9.4	9.2	9.0	9.0	6.6	5.3	5.1	16.8	37.7	3.8

（7）自宅保育の場合に子どもが日中を過ごす主な場所（問 29）（複数回答）

「自宅などで保護者や家族がみている」という人（問 25 参照）に、日中を主に過ごしている場所を聞いている。その結果、「自分の家」の 92.9%に次いで、「近所の公園」が 66.6%にのぼっており、自宅保育者うち、約 3 分の 2 は公園を過ごし場所のひとつとしている。そのほか、「スーパーやデパート」（39.3%）、「友だちの家」（36.2%）、「児童館」（34.4%）がいずれも 3～4 割で続いている。また、「その他」が 7.4%みられるが、その具体的な場所としては、「ピッコロハウス」「幼児教室などの習い事」「園庭開放」といった意見が複数見受けられる。

		N	1 自分の家	2 近所の公園	3 スーパーやデパート	4 友だちの家	5 児童館	6 親類の家	7 図書館	8 サークル活動	9 公民館	10 スポーツクラブ	11 ファーストフード店	12 ファミリーレストラン	13 勤務先	14 カルチャーセンター	15 喫茶店	16 母子保健センター	17 その他	18 無回答
0	TOTAL	323	92.9	66.6	39.3	36.2	34.4	19.2	12.7	6.2	3.7	3.4	3.1	2.2	1.9	0.6	0.3	0.0	7.4	1.2

（８）子どもが病気になったときの対処方法（問 30）

宛名の子どもが病気になったときにどのように対処しているかを聞いたところ、「母親が仕事を休む」（40.6%）が約 4 割で最も高く、次いで「親族や知人にみてもらう」が 11.7%となっている。一方、「母親と父親が協力して半々に休む」は 4.5%、「父親が仕事を休む」は 1.3%と、父親も仕事を休む人は 5%程度にとどまっている。（なお、「無回答」が 39.5%と、極めて高いが、この中には、母親が無職なので仕事を休む必要がないといったケースが多く含まれている。）

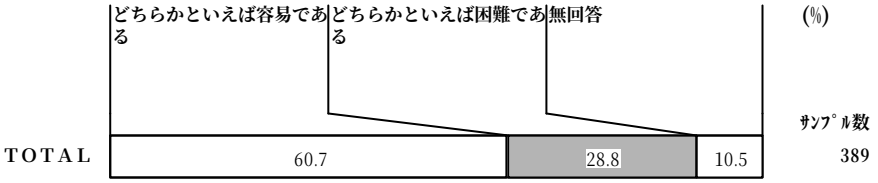
これを母親の職業別にみると、『勤め人（常勤）』では「母親が仕事を休む」（54.5%）が 5 割強で最も高いものの、次いで「親族や知人にみてもらう」（22.3%）と「母親と父親が協力して半々に休む」（19.8%）もいずれも 2 割前後となっており、母親が中心ではあるものの、父親や親族などの協力も多数みられる。一方、『パート・アルバイト』では「母親が仕事を休む」が 89.1%と、約 9 割を占め、父親の協力も親族などの協力も少ない。また、『自営業・自由業・家族従業員』と『内職・在宅勤務』では、「母親が仕事を休む」（68.6%、72.7%）が約 7 割で最も高く、次いで「親族や知人にみてもらう」（11.4%、13.6%）が 1 割強となっており、大部分は母親が担っているものの、親族などの協力も若干みられる。

	＊問８　母親（女性保護者）の職業	N	1 母親が仕事を休む	2 親族や知人にみてもらう	3 母親と父親が協力して半々に休む	4 病気でも受け入れてくれる施設でみてもらう	5 父親が仕事を休む	6 職場などに連れて行く	7 保育ママやベビーシッターに頼む	8 保育園・無認可保育施設・勤務先の保育施設に頼む	9 無回答
0	TOTAL	838	40.6	11.7	4.5	1.7	1.3	0.5	0.2	0.0	39.5
1	勤め人（常勤）	121	54.5	22.3	19.8	0.0	0.8	0.8	0.8	0.0	0.8
2	自営業・自由業・家族従業員	35	68.6	11.4	0.0	0.0	0.0	8.6	0.0	0.0	11.4
3	パート・アルバイト	92	89.1	5.4	3.3	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	1.1
4	内職・在宅勤務	22	72.7	13.6	0.0	4.5	0.0	0.0	0.0	0.0	9.1
5	無職（専業主婦含む）	562	26.5	10.3	2.0	2.1	1.8	0.0	0.2	0.0	57.1
6	その他	3	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3

女性保護者の職業別無回答　N=3 を除く

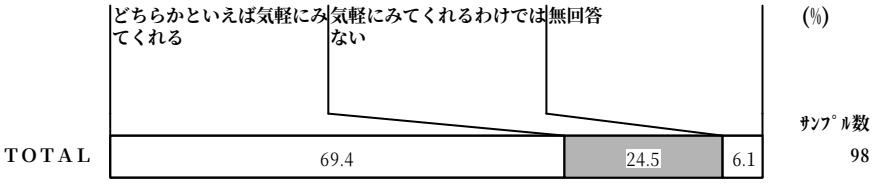
（9）子どもが病気のときの休暇のとりやすさ（問 30－1）

子どもが病気になったときに親が休むという人（問 30 で「1」～「3」に回答の人）に、子どもの病気を理由に休暇をとることが容易かどうかを聞いている。その結果、「どちらかといえば容易である」（60.7%）が約 6 割を占める一方、「どちらかといえば困難である」（28.8%）とする人も約 3 割みられる。



（10）子どもが病気のときの親族や知人への頼みやすさ（問 30－2）

子どもが病気になったときに親族や知人にみてもらうという人（問 30 で「4」に回答の人）に、子どもを気軽にみてもらえるかどうかを聞いている。その結果、「どちらかといえば気軽にみてくれる」（69.4%）が約 7 割を占める一方、「気軽にみてくれるわけではない」（24.5%）とする人も 2 割強みられる。

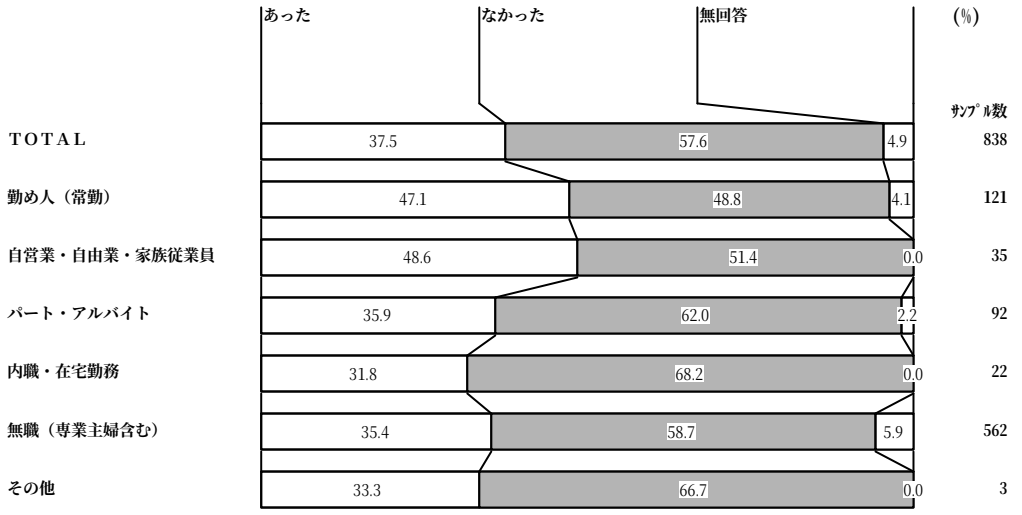


なお、問 30 から問 30－2 の結果から、子どもが病気のときに世話をする人の確保に困難がある（「職場などに連れて行く」、「どちらかの親が困難を伴いながら休暇をとる」、「親族や知人に無理ながらも頼んでいる」の合計）という人は、全体の 2 割近く（16.7%）である。

（11）過去 1 年間、緊急な事情のために子どもの世話ができなくなった事態の有無（問 31）

この 1 年間で、ふだん家庭で子どもの世話をしている人が、緊急な用事のために世話ができなくなったことが「あった」（37.5%）という人は 4 割弱である。

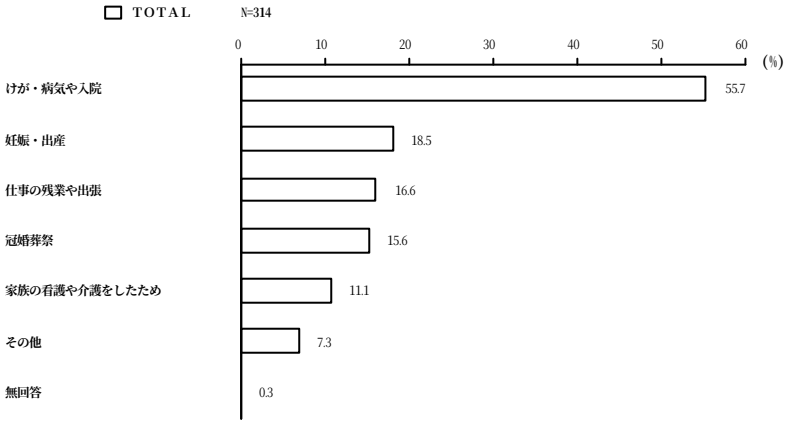
これを母親の職業別にみると、緊急に世話ができなくなったことが「あった」とする割合が高いのは『勤め人（常勤）』（47.1%）と『自営業・自由業・家族従業員』（48.6%）で、いずれも 5 割近くと、他の職業に比べて高くなっている。



女性保護者の職業別無回答　N=3 を除く

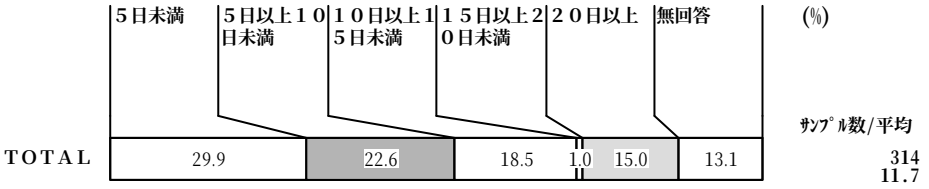
（12）子どもの世話ができなくなった理由（問 31－1）（複数回答）

問 31 で急に子どもの世話ができなくなった経験が「あった」という人にその理由を聞いている。その結果、「病気やけが」（55.7%）が 5 割を超えて特に高く、これに「妊娠・出産」（18.5%）、「仕事の残業や出張」（16.6%）、「冠婚葬祭」（15.6%）がいずれも 2 割弱で続いている。



（13）過去 1 年間で、子どもの世話ができなくなった日数（問 31－2）

問 31 で急に子どもの世話ができなくなった経験が「あった」という人に、その合計日数（過去 1 年間の）を聞いている。その結果、「5 日未満」（29.9%）が約 3 割で最も高く、これに「5 日以上 10 日未満」（22.6%）をあわせると、全体の 5 割以上が 10 日未満となっている。一方、「20 日以上」という人も 15.0%みられる。なお、全体の平均日数は 11.7 日である。



（14）子どもの世話ができなくなったときの対処方法（問 31－3）（複数回答）

問 31 で急に子どもの世話ができなくなった経験が「あった」という人に、そのときどのように対処したかを聞いている。その結果、「配偶者など家族にみてもらった」が 55.1%、「同居していない親族にみてもらった」が 52.9%となっており、家族や親族が上位を占めている。次いで「近所の友人や知人にみてもらった」（17.2%）と「他に頼まないで何とか対応した」（14.3%）が 15%前後となっている。

これを宛名の子どもの年齢別にみると、家族や親族の応援については、子どもの年齢による顕著な違いはみられないが、「近所の友人や知人にみてもらった」は子どもの年齢が高くなるほど顕著に高くなっており、子どもが小さいうちは親族の応援を求めざるを得ないことが多いが、子どもの年齢が高くなると、近所の知人に援助してもらうことができるようになるといった状況がうかがえる。

	＊問２４－１　子どもの年齢	N	1 配偶者など家族にみてもらった	2 同居していない親族にみてもらった	3 近所の友人や知人にみてもらった	4 他に頼まないで何とか対応した	5 保育ママやベビーシッターに頼んだ	6 無認可保育施設にみてもらった	7 市の制度を利用した	8 その他	9 無回答
0	TOTAL	314	55.1	52.9	17.2	14.3	3.8	2.9	2.5	1.6	10.2
1	0　歳	5	40.0	60.0	0.0	0.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0
2	1　歳	51	52.9	56.9	7.8	13.7	2.0	3.9	0.0	3.9	7.8
3	2　歳	57	54.4	56.1	14.0	14.0	1.8	5.3	3.5	0.0	8.8
4	3　歳	52	46.2	59.6	11.5	19.2	9.6	1.9	5.8	0.0	11.5
5	4　歳	63	65.1	49.2	22.2	12.7	3.2	3.2	1.6	0.0	11.1
6	5　歳	51	54.9	43.1	29.4	15.7	0.0	2.0	3.9	3.9	7.8
7	6　歳	33	57.6	51.5	21.2	12.1	3.0	0.0	0.0	3.0	15.2

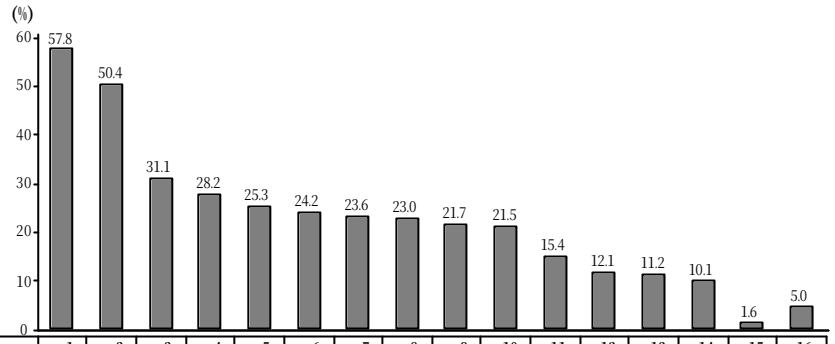
宛名の子どもの年齢別無回答　N=2 を除く

（15）保育・子育てサービスに対する要望（問 32）（５つまでの制限回答）

保育や子育てサービスの中で最も要望が高いのは「緊急のときに子どもをあずかってくれる」（57.8%）で、全体の 6 割近くが要望している。以下、「資質の豊かな保育士がいる保育」が 50.4%、「子育てのリフレッシュをしたいときにあずかってくれる」（31.1%）、「保育士の人数が多い」（28.2%）、「子どもが病気のときもあずかってくれる」（25.3%）がいずれも 3 割前後となっている。そのほかの要望に関してもいずれも 1～2 割の回答がみられ、要望が多岐に渡っている状況がうかがえるが、全体的には、保護者の緊急時や病気の子どもの受け入れといった、柔軟な保育体制を求める声と、保育士の量的・質的な充実を求める声が特に高くなっている。

これを母親（女性保護者）の職業別にみると、1 位となっているサービスは、『勤め人（常勤）』では「子どもが病気のときもあずかってくれる」（64.5%）であるのに対し、そのほかの職業ではいずれも「緊急のときに子どもをあずかってくれる」（53.3%～68.6%）となっている。また、全体では 2 割程度にとどまっているサービスの中で、特定の職業でのみ回答が高いものに着目すると、『勤め人（常勤）』と『パート・アルバイト』では「乳児（0 歳）がいつでも入れる」（40.5%、40.2%）が約 4 割にのぼって 3 位に、『自営業・自由業・

家族従業員』では「早朝や夜などもあずかってくれる」（40.0%）と「休日にもあずかってくれる」（31.4%）が 3～4 割にのぼって、3～4 位にあげられている。



	＊問８　母親（女性保護者）の職業	N	1 緊急のときに子どもをあずかってくれる	2 資質の豊かな保育士がいる	3 いときにあずかってくれる子育てのリフレッシュをした	4 保育士の人数が多い	5 子どもが病気のときもあずかってくれる	6 簡単で速い保育の利用手続き	7 保育時間を利用したおけいこ教室がある	8 早朝や夜などもあずかってくれる	9 乳児・0歳児がいつでも入れる	10 休日にもあずかってくれる	11 送り迎えしてくれる	12 子育て教室を行ってくれる子どもを対象とした育児相談	13 通勤上便利な駅近くであずかってくれる	14 ショートステイができる	15 その他	16 無回答
0	TOTAL	838	57.8	50.4	31.1	28.2	25.3	24.2	23.6	23.0	21.7	21.5	15.4	12.1	11.2	10.1	1.6	5.0
1	勤め人（常勤）	121	39.7	56.2	24.8	38.0	64.5	18.2	29.8	28.9	40.5	20.7	16.5	6.6	11.6	5.0	2.5	0.8
2	自営業・自由業・家族従業員	35	68.6	51.4	20.0	17.1	20.0	22.9	20.0	40.0	25.7	31.4	17.1	8.6	0.0	17.1	0.0	2.9
3	パート・アルバイト	92	53.3	50.0	25.0	32.6	40.2	20.7	26.1	20.7	40.2	28.3	18.5	8.7	12.0	7.6	0.0	5.4
4	内職・在宅勤務	22	63.6	50.0	22.7	22.7	22.7	18.2	13.6	4.5	9.1	22.7	13.6	9.1	4.5	13.6	0.0	4.5
5	無職（専業主婦含む）	562	61.2	48.8	34.5	25.8	14.9	25.8	22.6	21.9	14.8	20.1	14.8	14.1	11.9	11.0	1.8	6.0
6	その他	3	100.0	100.0	0.0	66.7	0.0	100.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0	0.0

女性保護者の職業別無回答　N=3 を除く

（16）用事があるときに希望する子どものあずけ先（問 33）

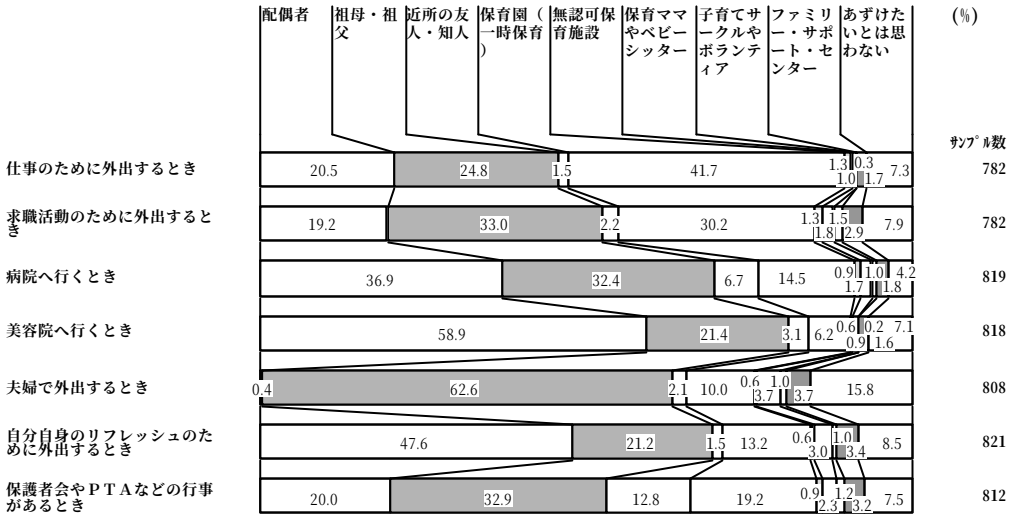
保護者が用事のために外出する場合、子どもをどこに（誰に）預けたいと思うかを、以下の 7 種類の外出目的のそれぞれについて聞いている。

その結果、「保育園（一時保育）」を希望する割合は、『仕事のために外出するとき』では 41.7%と、約 4 割を占めて最も高くなっているが、そのほか、『求職活動のために外出するとき』や『保護者会やＰＴＡなどの行事があるとき』でも、「祖母・祖父」（33.0%、32.9%）に次いで「保育園（一時保育）」（30.2%、19.2%）が 2 番目に高くなっている。

一方、『病院へ行くとき』『美容院へ行くとき』『自分自身のリフレッシュのために外出するとき』では、「配偶者」（36.9%、58.9%、47.6%）が最も高く、これに「祖母・祖父」（32.4%、21.4%、21.2%）が続いている。

なお、『夫婦で外出するとき』では「祖母・祖父」（62.6%）が 6 割以上を占めているものの、「保育ママやベビーシッター」や「ファミリー・サポート・センター」への回答が 3.7%と、７つの外出目的の中では最も高くなっている。

全体的にみると、仕事や求職活動、保護者会などといった、日常的なものや日程が固定されている用事では、祖母・祖父に加えて保育園の利用意向が高く、保護者の個人的な用事など、比較的日程の自由度が高い用事では、配偶者もしくは祖母・祖父を希望するという傾向がみられる。



（17）子育て支援サービス利用の際に重視する判断基準（問 34）（２つまでの制限回答）

保育などの子育て支援サービスを利用する際に重視する判断基準としては、「保育内容が安心して利用できること」が 65.4%で最も高く、これに「必要な時間帯に利用できること」（45.7%）と「利用料が安いこと」（41.9%）がいずれも 40%台で続いている。なお、保育所の立地条件に着目すると、「自分の住んでいるところへ近いこと」が 33.8%であるのに対し、「駅ビル内に設置されていて利用できること」や「駅の近くに隣接していること」はいずれも数%程度にとどまっており、駅の近くよりは自宅に近いことを重視する意見の方が多くなっている。

これを母親の職業別にみると、『勤め人（常勤）』と『自営業・自由業・家族従業員』では「保育内容が安心して利用できること」（65.3%、74.3%）が７割前後にのぼって最も高く、これに「必要な時間帯に利用できること」（58.7%、62.9%）が 6 割前後で続いている。一方、『パート・アルバイト』と『内職・在宅勤務』では「保育内容が安心して利用できること」（53.3%、72.7%）と「利用料が安いこと」（56.5%、45.5%）が上位を占めており、保育内容に関しては職業にかかわらず多くの人が重視しているが、加えて、常勤や自営業などでは保育の時間帯を、パートや在宅勤務などでは利用料を重視する人が多くなっている。

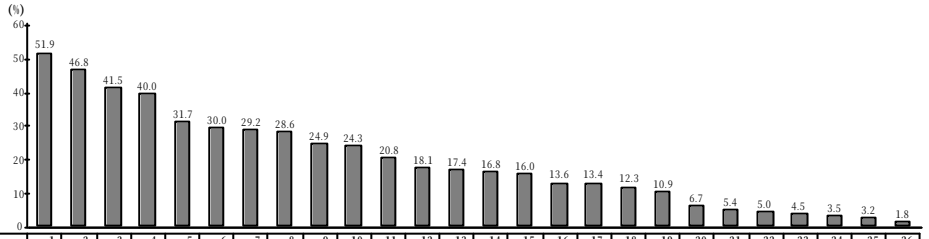
	＊問８　母親（女性保護者）の職業	N	1 保育内容が安心して利用できること	2 必要な時間帯に利用できること	3 利用料がやすいこと	4 自分の住んでいるところへ近いこと	5 駅の近くに隣接していること	6 駅ビル内に設置されていて利用できること	7 その他	8 無回答
0	TOTAL	838	65.4	45.7	41.9	33.8	2.3	1.2	1.2	1.8
1	勤め人（常勤）	121	65.3	58.7	29.8	33.1	1.7	1.7	0.0	2.5
2	自営業・自由業・家族従業員	35	74.3	62.9	37.1	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
3	パート・アルバイト	92	53.3	44.6	56.5	38.0	0.0	2.2	3.3	0.0
4	内職・在宅勤務	22	72.7	27.3	45.5	40.9	0.0	0.0	0.0	0.0
5	無職（専業主婦含む）	562	66.5	43.1	42.0	33.8	3.0	1.1	1.2	2.1
6	その他	3	66.7	0.0	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0

女性保護者の職業別無回答　N=3 を除く

（18）妊娠・出産・子育てを通じて困ったことや悩んだこと（問 35）（複数回答）

妊娠・出産・子育ての中で困ったことや悩んだことについては、「子どもの育て方（しつけ方）」（51.9%）と「自分の時間がない」（46.8%）が 5 割前後にのぼって最も高く、これに「子どもの健康」（41.5%）と「子どもを叱ることが多いと感じる」（40.0%）が約 4 割で続いており、育児等の中でストレスを感じている人が多い状況がうかがえる。以下、ほとんどの内容において 1～3 割の回答がみられることから、悩みや困難の内容が多岐に渡っている状況がうかがえるが、全体的にみると、子どもへの接し方（しつけを含む）と健康面に関わる内容は特に回答率が高いといった傾向がみられる。

これを宛名の子どもの年齢別にみると、「子どもの育て方（しつけ方）」「自分の時間がない」「子どもの健康」の 3 つに関しては年齢にかかわらず高くなっており、すべての年齢において上位 4 位までに含まれている。これに加えて、『1 歳』と『2 歳』では「子どもの生活習慣」が、3 歳以上では「子どもを叱ることが多いと感じる」が上位 4 位までに含まれており、特に『3 歳』では「子どもを叱ることが多いと感じる」が 50.7%にのぼって 1 位となっている。（なお、『0 歳』はサンプルが少ないため、分析からはずしている。）



	＊問２４－１　子どもの年齢	N	1 子どもの育て方・しつけ方	2 自分の時間がない	3 子どもの健康	4 じる子どもを叱ることが多いと感	5 妊娠時の体調変化や健康管理	6 子どもの生活習慣・食事など	7 家計に余裕がない	8 や喘息など子どものアレルギー・アトピ	9 出産時の不安	10 子どもの性格	11 住宅が狭い	12 親同士のおつきあい	13 がいない祖母・祖父など身近な協力者	14 安心してあずけられる所がな	15 る自分の健康と体力に不安があ	16 いない近所に一緒に遊べる子どもが	17 近所に遊び場がない	18 配偶者が協力的でない	19 つ友達がいない近所に同じ年頃の子どもを持	20 針が合わない配偶者との育児・子育ての方	21 職場で希望する休暇が取れな	22 家庭内での人間関係	23 ことこどもがいじめにあっている	24 その他	25 特にない	26 無回答
0	TOTAL	838	51.9	46.8	41.5	40.0	31.7	30.0	29.2	28.6	24.9	24.3	20.8	18.1	17.4	16.8	16.0	13.6	13.4	12.3	10.9	6.7	5.4	5.0	4.5	3.5	3.2	1.8
1	0 歳	16	43.8	31.3	50.0	18.8	37.5	31.3	37.5	25.0	37.5	12.5	25.0	18.8	12.5	18.8	12.5	6.3	12.5	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0
2	1 歳	156	52.6	53.2	39.7	34.6	35.3	37.8	34.0	24.4	23.7	23.7	23.1	16.0	16.0	16.7	14.1	14.1	14.1	9.0	14.7	4.5	2.6	3.8	0.6	2.6	1.9	1.9
3	2 歳	149	46.3	45.6	37.6	34.2	28.2	35.6	28.9	23.5	22.8	14.1	17.4	14.8	17.4	14.8	13.4	14.1	7.4	11.4	11.4	6.0	8.7	3.4	2.7	4.0	4.7	2.0
4	3 歳	134	48.5	44.0	45.5	50.7	38.8	28.4	26.9	30.6	26.1	31.3	22.4	17.2	16.4	18.7	17.9	19.4	14.2	7.5	15.7	5.2	6.7	6.0	3.0	4.5	2.2	0.7
5	4 歳	143	60.8	44.8	46.9	42.7	34.3	25.2	22.4	32.9	32.9	25.9	18.2	16.8	16.8	15.4	17.5	9.8	14.0	13.3	7.0	7.0	2.8	7.0	10.5	4.9	3.5	1.4
6	5 歳	150	53.3	46.0	36.0	42.7	26.7	25.3	33.3	30.0	21.3	26.7	26.7	19.3	18.0	18.0	15.3	11.3	15.3	16.7	8.7	8.7	6.0	5.3	4.7	4.0	4.0	2.7
7	6 歳	86	47.7	50.0	43.0	37.2	22.1	23.3	29.1	32.6	20.9	26.7	14.0	29.1	22.1	17.4	19.8	15.1	16.3	18.6	5.8	11.6	7.0	5.8	8.1	0.0	2.3	2.3

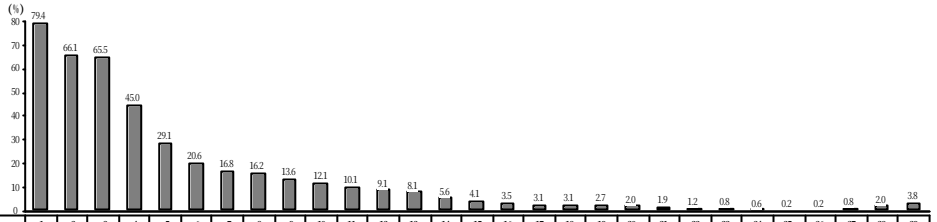
宛名の子どもの年齢別無回答　N=4 を除く

（19）困ったことや悩んだことを相談する相手（問 36）（複数回答）

子育ての中で困ったことがあったときに相談する相手については、「配偶者」が 79.4%で最も高く、全体の約 8 割の人が配偶者をあげている。これに「子どもの祖母・祖父」（66.1%）と「友人・知人」（65.5%）がいずれも約 65%、「子育て中の仲間」が 45.0%で続いており、子どもの親・祖父母、友人や子育て仲間が上位を占めている。一方、子育ての専門機関や公的機関の中では「病院・診療所」が 16.2%で最も高く、子育てに関わる情報メディアの中では「育児書・育児雑誌・新聞」が 20.6%で最も高くなっている。

これを宛名の子どもの年齢別にみると、すべての年齢において 1 位は「配偶者」となっているが、これに、4 歳以下では「子どもの祖母・祖父」が続いているのに対し、5 歳以上では「友人・知人」が 2 位となっている。なお、子育ての専門機関や公的機関に着目する

と、「母子保健センター・保健福祉総合センター」は年齢が低いほど高くなっており、『0 歳』では 25.0%にのぼっている。また、「幼稚園」や「保育園」は年齢が高くなるほど高くなっており、『5 歳』では「幼稚園」が 18.0%にのぼり、「病院・診療所」を上回っている。



	＊問２４－１　子どもの年齢	N	1 配偶者	2 子どもの祖母・祖父	3 友人・知人	4 子育て中の仲間	5 自分または配偶者の兄弟姉妹	6 育児書・育児雑誌・新聞	7 近所の人	8 病院・診療所	9 保育園	10 総合センター―母子保健センター・保健福祉	11 幼稚園	12 職場の人	13 親　類	14 インターネット	15 電話による相談サービス	16 テレビやラジオ	17 保健所・保健相談所	18 児童館	19 子育てセミナーや育児教室	20 市役所	21 無認可保育施設	22 民間の相談サービス	23 学童クラブ	24 民生委員・児童委員	25 児童相談所	26 教育相談室	27 その他	28 相談する人・先がなかった	29 無回答
0	TOTAL	838	79.4	66.1	65.5	45.0	29.1	20.6	16.8	16.2	13.6	12.1	10.1	9.1	8.1	5.6	4.1	3.5	3.1	3.1	2.7	2.0	1.9	1.2	0.8	0.6	0.2	0.2	0.8	2.0	3.8
1	0　歳	16	75.0	68.8	68.8	50.0	43.8	25.0	6.3	12.5	0.0	25.0	0.0	0.0	18.8	18.8	0.0	0.0	0.0	12.5	6.3	6.3	0.0	0.0	0.0	6.3	0.0	0.0	0.0	0.0	6.3
2	1　歳	156	82.1	74.4	68.6	40.4	29.5	25.6	16.0	16.0	7.7	15.4	2.6	5.8	8.3	9.0	5.8	3.8	2.6	3.8	3.8	2.6	1.3	0.6	0.0	1.3	0.0	0.0	1.9	0.6	2.6
3	2　歳	149	78.5	66.4	63.8	43.6	26.8	19.5	16.8	20.1	18.1	14.8	5.4	8.7	10.1	5.4	3.4	3.4	2.7	2.7	2.7	3.4	2.0	2.7	0.0	0.7	0.7	0.0	0.0	0.0	4.0
4	3　歳	134	77.6	65.7	58.2	51.5	30.6	20.1	17.9	17.9	17.2	13.4	9.7	13.4	4.5	6.0	3.7	6.0	4.5	2.2	3.7	2.2	2.2	0.0	0.7	0.7	0.0	0.0	1.5	3.7	2.2
5	4　歳	143	80.4	67.1	66.4	50.3	30.8	25.9	18.9	18.2	15.4	11.9	16.1	11.2	8.4	4.9	6.3	1.4	4.2	2.8	0.0	2.1	4.2	1.4	2.1	0.0	0.7	0.7	0.7	2.1	3.5
6	5　歳	150	78.0	57.3	69.3	42.7	28.7	16.0	20.0	10.7	11.3	6.7	18.0	8.0	8.0	3.3	3.3	4.7	2.7	4.7	2.0	0.7	1.3	2.0	0.7	0.0	0.0	0.7	0.7	2.0	6.7
7	6　歳	86	80.2	64.0	65.1	39.5	25.6	11.6	10.5	14.0	14.0	7.0	11.6	8.1	7.0	2.3	1.2	0.0	2.3	0.0	4.7	0.0	0.0	0.0	2.3	0.0	0.0	0.0	0.0	5.8	3.5

宛名の子どもの年齢別無回答　N=4 を除く

（20）困ったことや悩んだことを最もよく相談する相手（問 36－1）（上位 3 位）

問 36 の「子育ての中で困ったことがあったときに相談する相手」の中で特によく相談する相手を上位 3 位まで回答してもらった。

最もよく相談する相手としては、全体の 5 割強の人が「配偶者」（54.7%）と回答している。

		N	1 配偶者	2 子どもの祖母・祖父	3 友人・知人	4 子育て中の仲間	5 自分または配偶者の兄弟姉妹	6 保育園	7 病院・診療所	8 親　類	9 近所の人	10 職場の人	11 育児書・育児雑誌・新聞	12 インターネット	13 無認可保育施設	14 幼稚園	15 総合センター―母子保健センター・保健福祉	16 児童館	17 子育てセミナーや育児教室	18 学童クラブ	19 民生委員・児童委員	20 保健所・保健相談所	21 児童相談所	22 教育相談室	23 市役所	24 民間の相談サービス	25 テレビやラジオ	26 電話による相談サービス	27 その他	28 相談する人・先がなかった	29 無回答
0	TOTAL	838	54.7	14.4	7.2	6.2	4.9	1.1	1.1	0.6	0.5	0.5	0.5	0.2	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	0.5	7.0

2 番目によく相談する相手としては、全体の約 3 割が「子どもの祖母・祖父」（30.4%）と回答しており、以下、「友人・知人」（15.2%）、「子育て中の仲間」（12.8%）、「配偶者」（12.5%）となっている。

		N	1 子どもの祖母・祖父	2 友人・知人	3 子育て中の仲間	4 配偶者	5 自分または配偶者の兄弟姉妹	6 保育園	7 病院・診療所	8 職場の人	9 育児書・育児雑誌・新聞	10 親　類	11 近所の人	12 無認可保育施設	13 幼稚園	14 総合センター―母子保健センター・保健福祉	15 電話による相談サービス	16 インターネット	17 保健所・保健相談所	18 児童館	19 市役所	20 子育てセミナーや育児教室	21 学童クラブ	22 民生委員・児童委員	23 児童相談所	24 教育相談室	25 民間の相談サービス	26 テレビやラジオ	27 その他	28 相談する人・先がなかった	29 無回答
0	TOTAL	838	30.4	15.2	12.8	12.5	5.6	2.7	2.3	1.8	1.8	1.3	1.0	0.5	0.5	0.5	0.5	0.4	0.1	0.1	0.1	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	9.7

3 番目によく相談する相手としては、「友人・知人」が 19.9%、「子育て中の仲間」が 15.6%となっている。

		N	1 友人・知人	2 子育て中の仲間	3 子どもの祖母・祖父	4 自分または配偶者の兄弟姉妹	5 配偶者	6 保育園	7 近所の人	8 育児書・育児雑誌・新聞	9 病院・診療所	10 幼稚園	11 職場の人	12 総合センター 母子保健センター・保健福祉	13 親戚	14 インターネット	15 施設可保育施設	16 保健所・保健相談所	17 児童館	18 テレビやラジオ	19 電話による相談サービス	20 市役所	21 民生委員・児童委員	22 学童クラブ	23 児童相談所	24 教育相談室	25 民間の相談サービス	26 子育てセミナーや育児教室	27 その他	28 相談する人・先がなかった	29 無回答
0	TOTAL	838	19.9	15.6	10.1	7.4	6.3	3.9	3.3	3.1	2.4	2.3	1.8	1.8	1.1	1.1	0.6	0.5	0.4	0.4	0.4	0.2	0.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.1	17.2

以上の結果より、子育てに関して悩みを持ったり困ったときには、まず配偶者に、2 番目に子どもの祖母・祖父に、3 番目に自分の友達や子育てを通じて知り合った仲間に相談するといった人が多いと想定される。また、相談先の 1 位から 3 位までの中に子育ての専門機関や公的機関を回答している人はほとんどみられないことから、相談先の中心は家族や親戚、友人や知人であることがうかがえる。